

令和8年度

全国学力・学習状況調査結果の概要

令和8年8月

高知県教育委員会

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日

令和8年4月20日（月）～5月29日（金）

- ・教科に関する調査 令和8年4月23日（木）※中学校英語以外
- ・中学校英語調査（聞く、読む、書くこと）

令和8年4月20日（月）～4月23日（木）（予備日24日（金））

- ・中学校英語（話すこと）

当日実施：令和8年4月24日（金）、27日（月）※全国から500校抽出

期間内実施：令和8年4月28日（火）～5月29日（金）

- ・児童質問調査 令和8年4月24日（金）～5月8日（金）
- ・生徒質問調査 令和8年4月20日（月）～4月23日（木）（予備日24日（金））

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学、英語を出題

（英語は文部科学省 CBT システムによるオンライン方式で実施）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 |
|---|

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査を実施

(4) 県内（公立学校）の参加状況

◇ 参加学校数

小学校

市町村（学校組合）立小学校	義務教育学校	特別支援学校（小学部）	合計
164校	4校	1校	169校

中学校

市町村（学校組合）立中学校、 県立中学校	義務教育学校	特別支援学校（中学部）	合計
85校	4校	1校	90校

<参加校数>

・小中学校	249校	※義務教育学校は、小・中学校の義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営する学校であり、小・中ともに実施する学校が4校であるため、合計が4校となっている。
・義務教育学校	4校	
・特別支援学校	1校	※特別支援学校は、1校の中に小学部や中学部があり、小学部・中学部ともに実施する学校が1校のため、合計が1校となっている。
計	254校	

◇ 小学校解答（回答）児童数

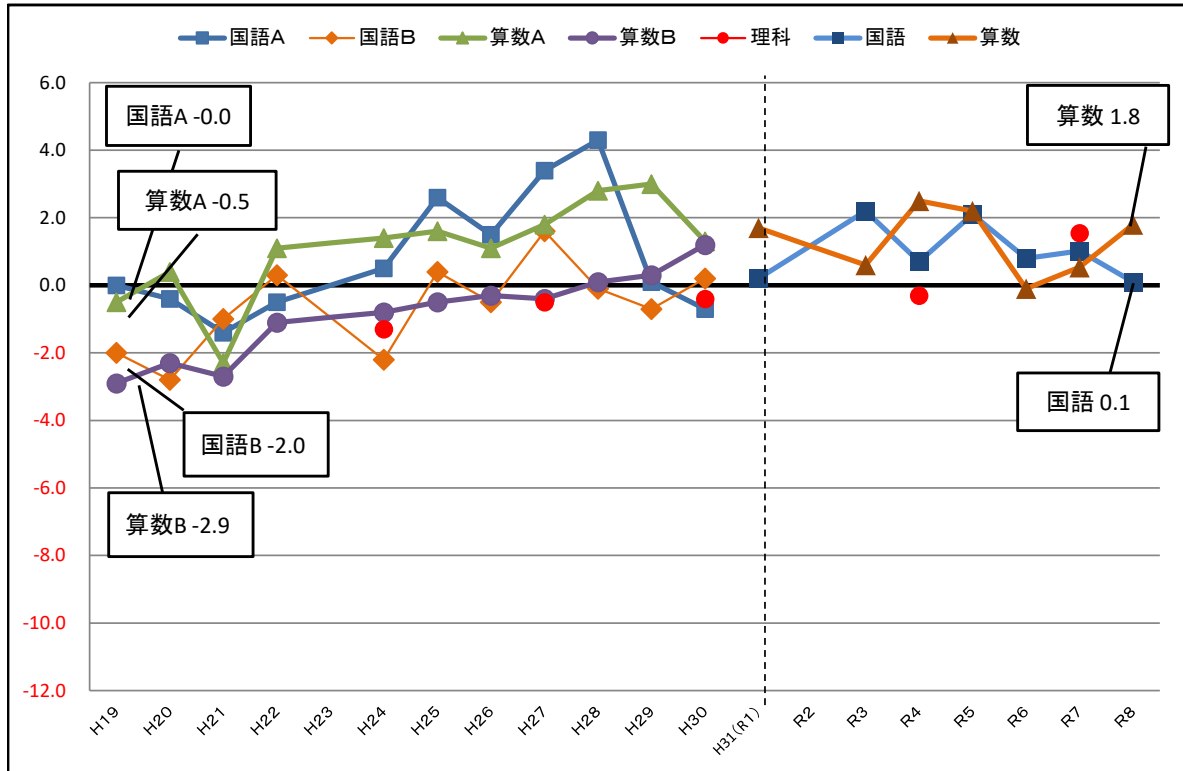
国語	4,424名
算数	4,428名
児童質問	4,489名

◇ 中学校解答（回答）生徒数

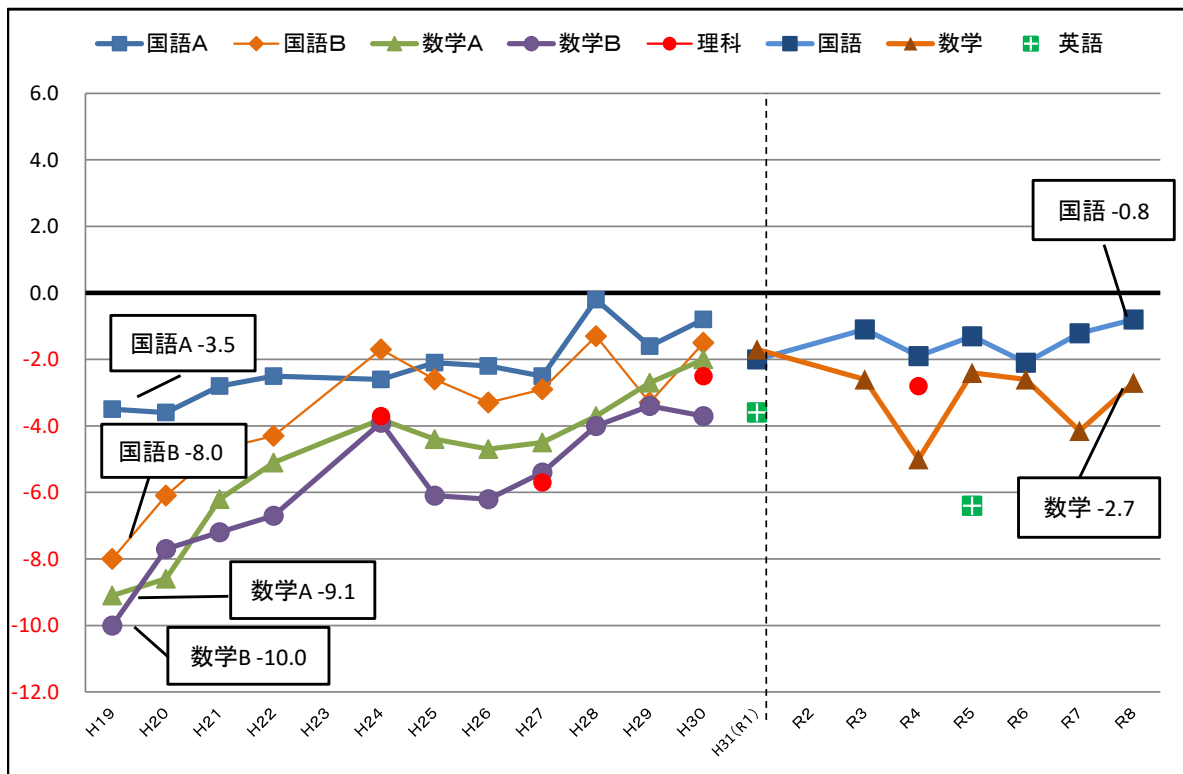
国語	3,553名
数学	3,552名
英語	3,602名
生徒質問	3,623名

平成19年～令和8年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査



中学校調査



※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国値はない。)

※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

※令和7年度中学校理科はIRTによる結果提供のため、数値は表示していない。

※令和8年度中学校英語はIRTによる結果提供のため、数値は表示していない。

教科別平均正答率【小学校】

小学校(国語・算数)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和8年度	61.0	60.9	0.1	58.2	56.4	1.8
令和7年度	67.8	66.8	1.0	58.5	58.0	0.5
令和6年度	68.5	67.7	0.8	63.3	63.4	-0.1
令和5年度	69.3	67.2	2.1	64.7	62.5	2.2
令和4年度	66.3	65.6	0.7	65.7	63.2	2.5
令和3年度	66.9	64.7	2.2	70.8	70.2	0.6
平成31(令和元)年度	64.0	63.8	0.2	68.3	66.6	1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	算数平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	70.0	70.7	-0.7	64.8	63.5	1.3
	平成29年度	74.9	74.8	0.1	81.6	78.6	3.0
	平成28年度	77.2	72.9	4.3	80.4	77.6	2.8
	平成27年度	73.4	70.0	3.4	77.0	75.2	1.8
	平成26年度	74.4	72.9	1.5	79.2	78.1	1.1
	平成25年度	65.3	62.7	2.6	78.8	77.2	1.6
	平成24年度	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	0.5	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.4
	平成23年度	81.0			82.3		
	平成22年度	82.8 (82.2~83.5)	83.3 (83.2~83.5)	-0.5	75.3 (74.3~76.3)	74.2 (74.0~74.4)	1.1
	平成21年度	68.5	69.9	-1.4	76.4	78.7	-2.3
	平成20年度	65.0	65.4	-0.4	72.6	72.2	0.4
	平成19年度	81.7	81.7	0.0	81.6	82.1	-0.5
B	平成30年度	54.9	54.7	0.2	52.7	51.5	1.2
	平成29年度	56.8	57.5	-0.7	46.2	45.9	0.3
	平成28年度	57.7	57.8	-0.1	47.3	47.2	0.1
	平成27年度	67.0	65.4	1.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.0	55.5	-0.5	57.9	58.2	-0.3
	平成25年度	49.8	49.4	0.4	57.9	58.4	-0.5
	平成24年度	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.2	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	-0.8
	平成23年度	44.3			46.2		
	平成22年度	78.1 (77.2~79.0)	77.8 (77.7~78.0)	0.3	48.2 (47.2~49.2)	49.3 (49.1~49.5)	-1.1
	平成21年度	49.5	50.5	-1.0	52.1	54.8	-2.7
	平成20年度	47.7	50.5	-2.8	49.3	51.6	-2.3
	平成19年度	60.0	62.0	-2.0	60.7	63.6	-2.9

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。

()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。

※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

※平成31年度よりAB統合

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

教科別平均正答率【中学校】

中学校(国語・数学)						
	国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
	高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
令和8年度	63.1	63.9	-0.8	54.3	57.0	-2.7
令和7年度	53.1	54.3	-1.2	44.1	48.3	-4.2
令和6年度	56.0	58.1	-2.1	49.9	52.5	-2.6
令和5年度	68.5	69.8	-1.3	48.6	51.0	-2.4
令和4年度	67.1	69.0	-1.9	46.4	51.4	-5.0
令和3年度	63.5	64.6	-1.1	54.6	57.2	-2.6
平成31(令和元)年度	70.8	72.8	-2.0	58.1	59.8	-1.7

		国語平均正答率(%)		高知県と 全国の差	数学平均正答率(%)		高知県と 全国の差
		高知県(公立)	全国(公立)		高知県(公立)	全国(公立)	
A	平成30年度	75.3	76.1	-0.8	64.1	66.1	-2.0
	平成29年度	75.8	77.4	-1.6	61.9	64.6	-2.7
	平成28年度	75.4	75.6	-0.2	58.5	62.2	-3.7
	平成27年度	73.3	75.8	-2.5	59.9	64.4	-4.5
	平成26年度	77.2	79.4	-2.2	62.7	67.4	-4.7
	平成25年度	74.3	76.4	-2.1	59.3	63.7	-4.4
	平成24年度	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-2.6	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-3.8
	平成23年度	78.5			54.3		
	平成22年度	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-2.5	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-5.1
	平成21年度	74.2	77.0	-2.8	56.5	62.7	-6.2
	平成20年度	70.0	73.6	-3.6	54.5	63.1	-8.6
B	平成19年度	78.1	81.6	-3.5	62.8	71.9	-9.1
	平成30年度	59.7	61.2	-1.5	43.2	46.9	-3.7
	平成29年度	68.9	72.2	-3.3	44.7	48.1	-3.4
	平成28年度	65.2	66.5	-1.3	40.1	44.1	-4.0
	平成27年度	62.9	65.8	-2.9	36.2	41.6	-5.4
	平成26年度	47.7	51.0	-3.3	53.6	59.8	-6.2
	平成25年度	64.8	67.4	-2.6	35.4	41.5	-6.1
	平成24年度	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-1.7	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-3.9
	平成23年度	61.0			45.2		
	平成22年度	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-4.3	36.6 (35.4~37.9)	43.3 (43.1~43.5)	-6.7
	平成21年度	69.8	74.5	-4.7	49.7	56.9	-7.2
	平成20年度	54.7	60.8	-6.1	41.5	49.2	-7.7
	平成19年度	64.0	72.0	-8.0	50.6	60.6	-10.0

中学校(英語3技能)						
	英語平均正答率(%)		高知県と 全国の差		平均IRTスコア	
	高知県(公立)	全国(公立)			高知県(公立)	全国(公立)
令和5年度	39.2	45.6	-6.4	令和8年度	468	499
平成元年度	52.4	56.0	-3.6	※4技能の結果は、9月以降に公表される予定		

中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	～341	342～448	449～556	557～663	664～
3技能スコア換算	～329	330～443	444～558	559～673	674～

○IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

○IRTスコア

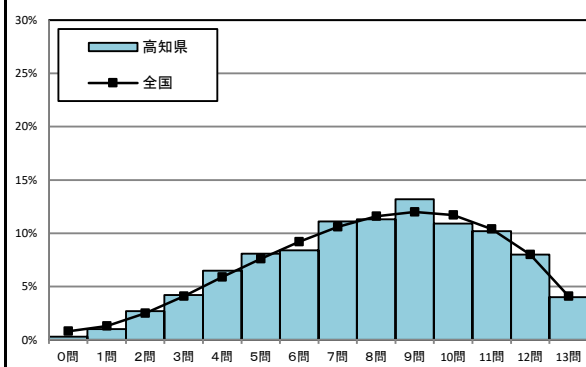
IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

各教科に関する学力の状況

〔小学校国語〕

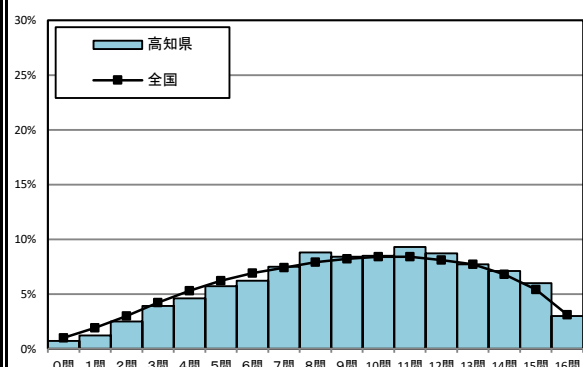
正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,424	7.9	61.0	8.0	2.9
全国	922,411	7.9	60.9	8.0	3.0

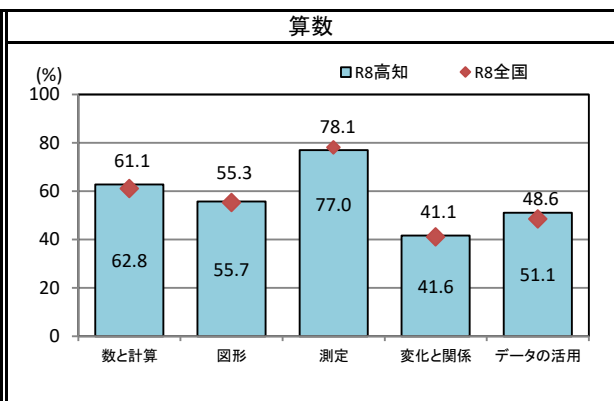
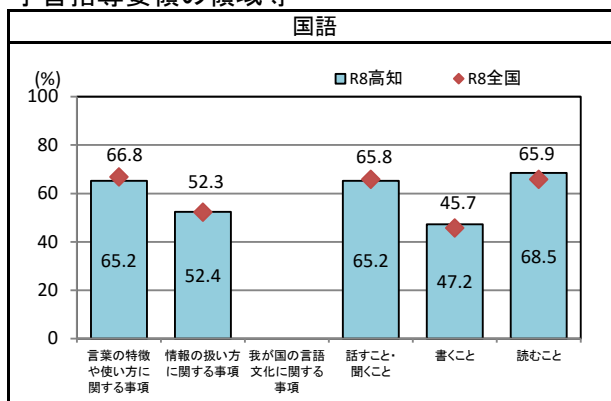


〔小学校算数〕

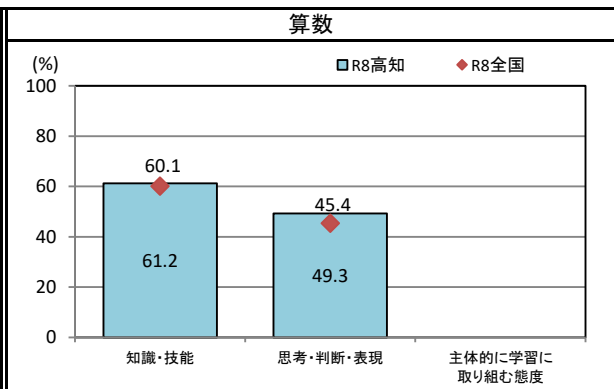
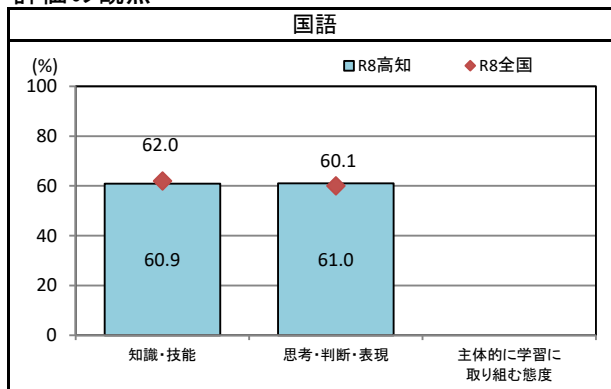
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,428	9.3	58.2	10.0	3.8
全国	922,778	9.0	56.4	9.0	4.0



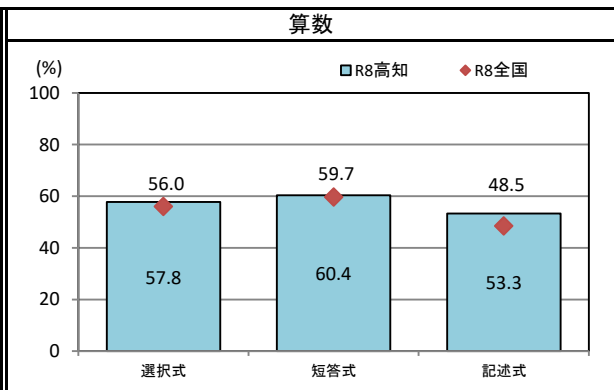
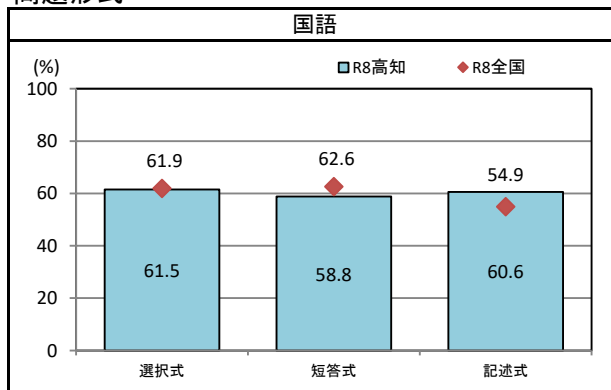
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

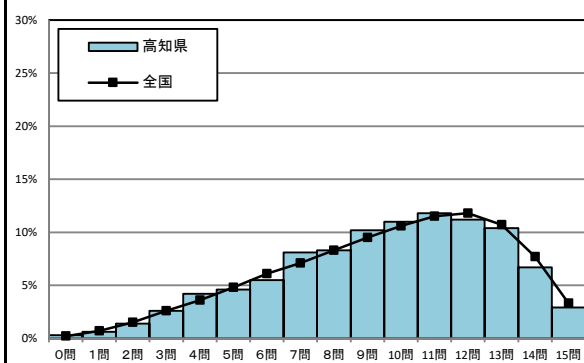


各教科に関する学力の状況

〔中学校国語〕

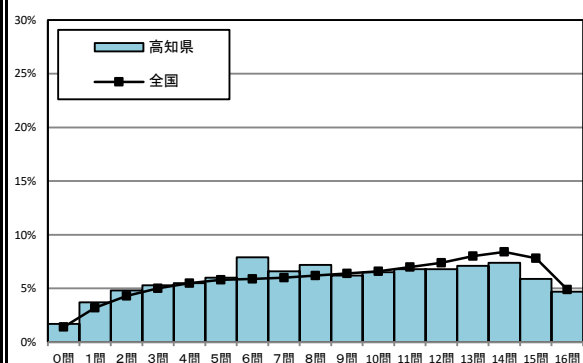
正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,553	9.5	63.1	10.0	3.3
全国	841,873	9.6	63.9	10.0	3.3

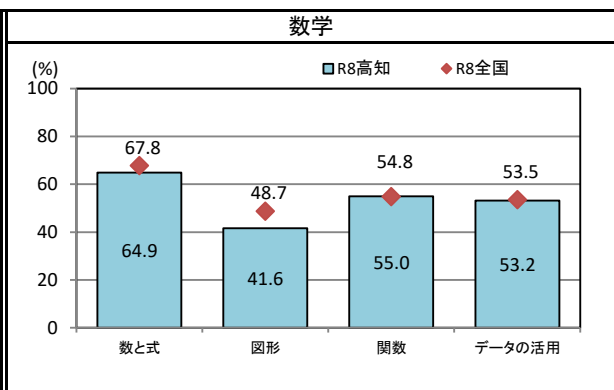
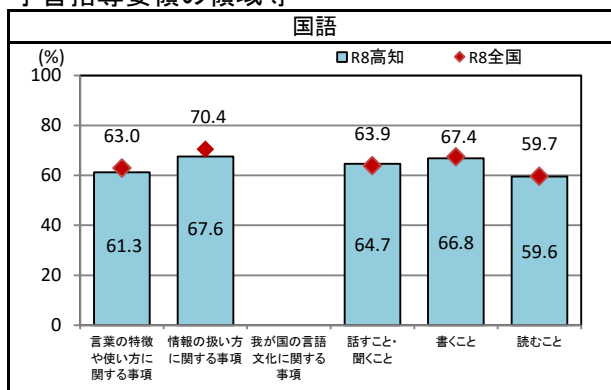


〔中学校数学〕

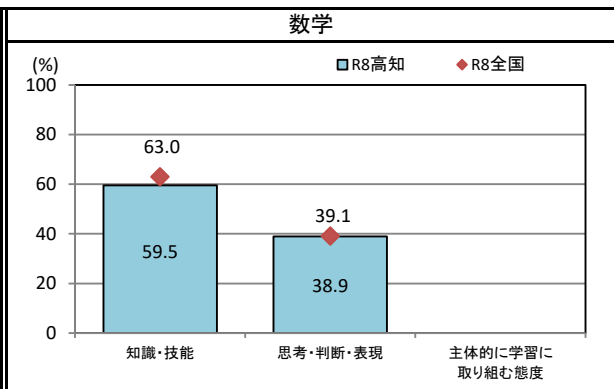
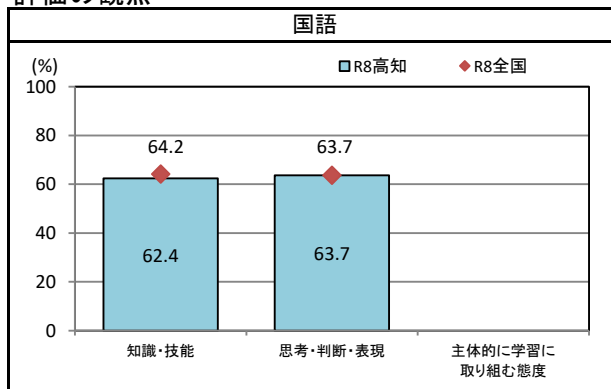
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,552	8.7	54.3	9.0	4.4
全国	842,491	9.1	57.0	10.0	4.5



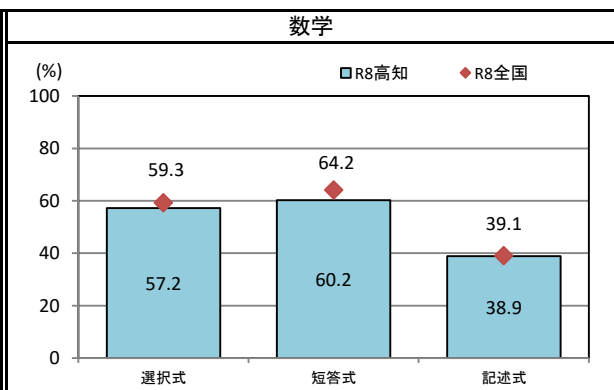
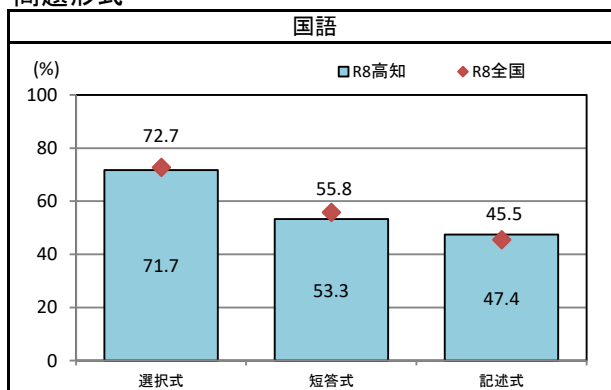
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式



・以下の集計値／グラフは、4月20日から4月24日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
高知県（公立）	3,602	3.1 / 7	2.0
全国（公立）	839,203	3.7 / 7	2.1

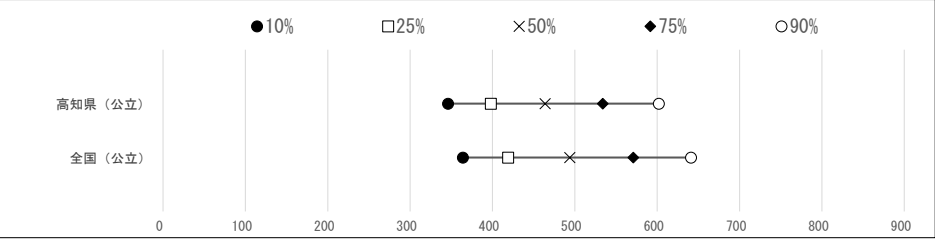
技能別平均正答数集計値

	聞くこと	読むこと・書くこと
高知県（公立）	1.0 / 2	2.1 / 5
全国（公立）	1.2 / 2	2.5 / 5

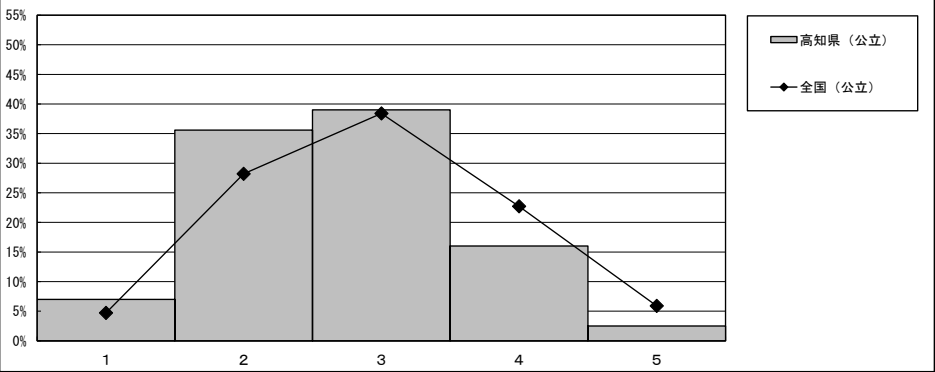
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
高知県（公立）	468	104.6	346	398	464	534	602
全国（公立）	499	113.7	364	419	494	571	641

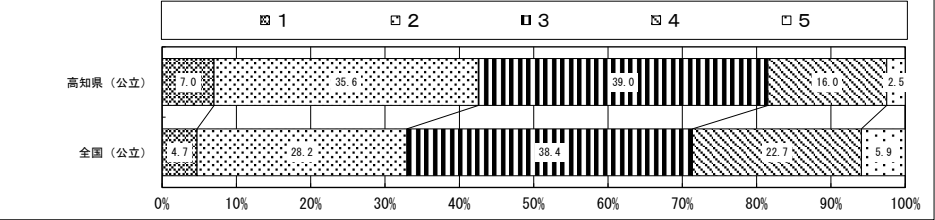
IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%, 25%, 50%, 75%, 90%）



IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド分布比較



IRTバンド集計値

IRTバンド	生徒数	割合 (%)	
	高知県（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
5	89	2.5	5.9
4	576	16.0	22.7
3	1,403	39.0	38.4
2	1,282	35.6	28.2
1	252	7.0	4.7

教科調査

多様な子どもたちの主体的・対話的で 深い学びを実現する学習者主体の授業づくり

多様な子供たちを誰一人取り残さず、主体性と協働性を引き出し、生涯にわたって学び続ける「生きる力」を育成することを目指す。

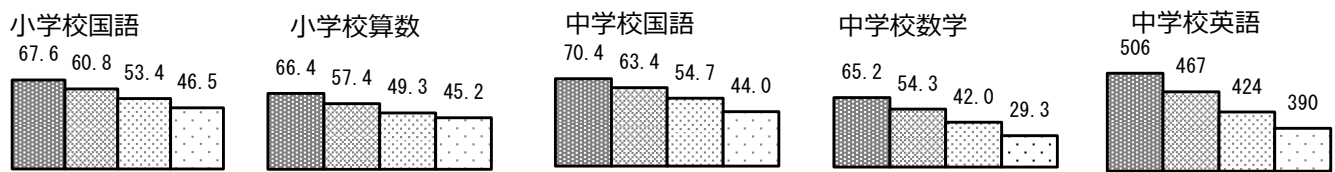
なぜ学習者主体を目指すか？

課題解決に**自分から**取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の**正答率・IRTスコア**に加え、**好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心等**が明確に高い傾向にあり、自分で学び方を考え工夫する姿も見られる。

課題解決 × 教科の正答率

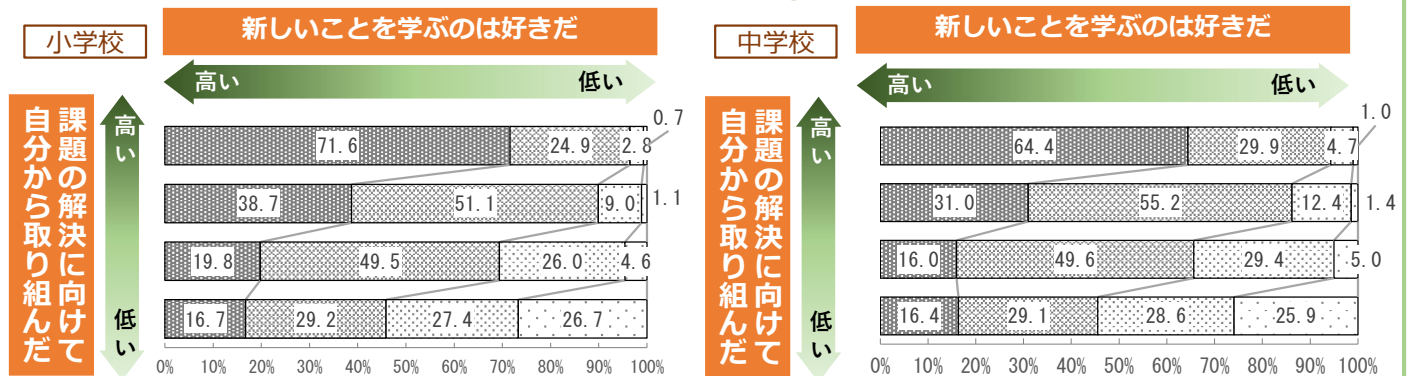
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



R8全国学力・学習状況調査 教科調査結果と質問調査結果のクロス集計

課題解決 × 好奇心



R8全国学力・学習状況調査 質問調査結果のクロス集計

子どもの学びを支える教師の関わり

教える・指導
(teaching)



促す・引き出す
支援
(coaching)

どちらの役割（指導・支援）も大切

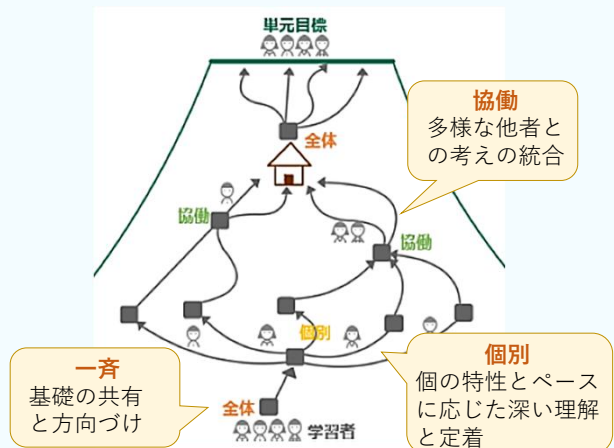
付けるべき力を見据え、子どもの現状や単元の特性に応じて教師自身がアプローチを柔軟に選択し、「自ら学び方を調整できる学習者」を育てる。

▶ 主体性を引き出す環境設定

育成する資質・能力を単元目標として具体的な子供の姿で描き、各教科の見方・考え方が働き、自ら解決したくなるような課題解決の学習過程をデザインする。

▶ 見取りと評価に基づく適切な指導・支援

「一斉・協働・個別」を柔軟に組み合わせ、多様な子供たちを誰一人取り残さない学びの形をデザインし、デジタル等も活用して**学習者の状況を把握・評価し**、その見取りに基づいた次の最適な指導・支援へと柔軟に繋げる。

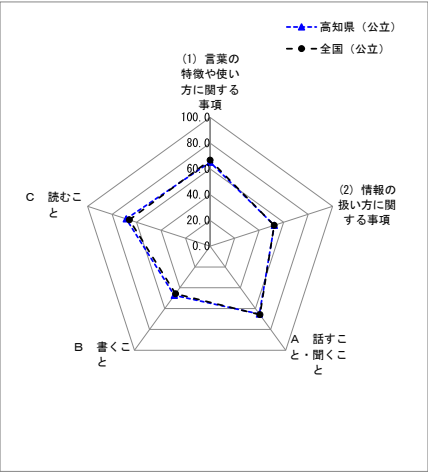


・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		高知県（公立）		全国（公立）		対象児童数	高知県（公立）		全国（公立）		
		169		18,077			4,424		922,411		
集計結果											
分類			区分			対象問題数 （問）	平均正答率（％）				
							高知県（公立）		全国（公立）		
全体						13	61.0		60.9		
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項				4	65.2		66.8		
		(2) 情報の扱い方に關する事項				2	52.4		52.3		
		(3) 我が国の言語文化に關する事項				0					
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと				3	65.2		65.8		
		B 書くこと				2	47.2		45.7		
		C 読むこと				2	68.5		65.9		
評価の観点			知識・技能			6	60.9		62.0		
			思考・判断・表現			7	61.0		60.1		
			主体的に学習に取り組む態度			0					
問題形式			選択式			9	61.5		61.9		
			短答式			2	58.8		62.6		
			記述式			2	60.6		54.9		

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等									高知県（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	選択式	短答式	記述式					
1ー	【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる				3・4イ				○		○			76.3	73.9	2.4	0.1	0.8
1二(1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6ウ				○		○			57.0	60.2	-3.2	0.1	0.6
1二(2)	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6ウ				○		○			62.3	63.2	-0.9	0.1	0.7
1二(3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	5・6ク							○		○			68.2	65.2	3.0	0.1	0.8
2ー	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				5・6イ				○		○			56.6	57.9	-1.3	0.2	0.8
2二	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる		3・4ア						○		○			48.7	48.9	-0.2	0.5	1.1
2三ア	【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す（みじか - い）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ							○		○			84.3	80.0	4.3	2.4	4.1
2三イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ							○		○			33.3	45.2	-11.9	5.2	6.6
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6エ				○		○			37.9	33.5	4.4	3.2	5.2
3ー	【文章】の特徴として適切なものを選択する	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	5・6カ							○		○			75.2	76.7	-1.5	0.6	2.2
3二	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6イ						○		○			56.0	55.6	0.4	0.8	2.5
3三(1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6ウ				○		○			53.6	55.5	-1.9	1.0	3.3
3三(2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6オ				○		○			83.4	76.4	7.0	9.0	15.6

今回の調査からわかったこと

- ▶ **成果** 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつこと <大問3三(2)>
自分の経験や考えと比べながら文章を読むことで、考えを持つことができる。
- ▶ **課題** 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること <大問2四>
文章を書く際、文章を書き上げることが目的となり、相手や目的を意識して、構成や展開、表現を吟味したり、推敲したりすることが十分でない。

授業づくりのポイント

取り上げる問題：大問2四

育成したい資質・能力（問題の趣旨）

- ▶ 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

予想される児童のつまずき（誤答傾向）

- 「引用したこと」が、自分の考えに説得力を持たせたり、伝えたいことを効果的に伝えたりする内容や表現になっていない
- 指定された内容に対応する部分を書き抜くだけに留まっていたり、考えを書くだけに留まっていたりする

国語の深い学び

書くことの学習過程を児童自身が意識し、「言葉による見方・考え方」を働かせながら言葉や文を吟味する

文章を書く際、児童自身が“書くことの学習過程”を見通し、**言葉の働きや意味を考えながら相手や目的に合う言葉を選んだり、構成を検討したりする**ことで、文章構成や展開、表現の工夫の意味や働きを本質的に理解し、活用する「深い学び」へとつながる。

ここがポイント！

児童が「（相手に）この内容を伝えたい」という思いを持ち、相手にどのように受け止められるかを見通しながら表現を吟味する。

引き出したい児童の「思考の姿」

児童の思考を動かす教師の働きかけ



【題材の設定、情報の収集、内容の検討】

「暑い夏を快適に過ごすための衣服の工夫」を知っていたら、夏が少しでも快適に過ごせそう。友達も喜んでくれそうなことを伝えたいな。

【構成の吟味】

集めた情報を整理していくと、伝えたいことがはっきりしてきたよ。
『序論—本論—結論』が、伝えたいことにつながる内容や順番になっているか、内容のまとまりを見直してみよう。

【考えの形成・記述の吟味】

前に、自分の考えを分かりやすくする方法として、『引用』という方法を学習したな。どうすればよかったかな。学習メモを見よう。
事実と考えを区別するため、文末の書き方に気をつけることも思い出してきたよ！

【推敲】

友達の文章にあった、読み手に問いかける書き方を私も使ってみよう。
友達にも読んでもらって、伝えたいことが正しく伝わって、喜んでもらえる内容になっているか、確認してみよう。

場面設定

児童の実態や他教科等と関連を考慮し、事前に情報収集させるなど、児童が「伝えたい」という主体的な思いを持って臨めるように計画する。

価値づけ

収集した情報や自分の考えを、相手や目的を意識しながら、図や表、付箋などを活用して整理している様子を見取り、全体に広げていく。

自己調整を促す

児童が、これまでに学習したことを自主的に意識したり活用したりできるよう、価値づけたり環境を整えたりする。

児童が、内容や表現を吟味できるよう、相手や目的を意識させるような問いかけをする。



吟味する中で、学習過程を往還することもある

・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

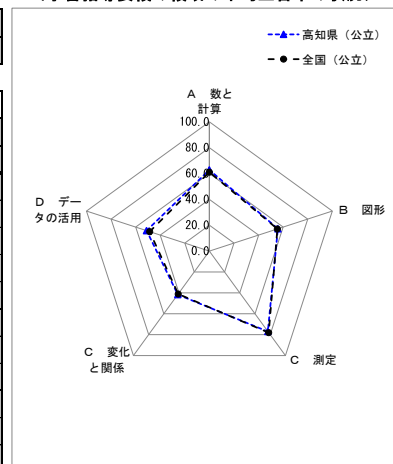
集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象児童数	高知県（公立）	全国（公立）
	169	18,075		4,428	922,778

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			高知県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	58.2	56.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	62.8	61.1
	B 図形	4	55.7	55.3
	C 測定	1	77.0	78.1
	C 変化と関係	3	41.6	41.1
	D データの活用	4	51.1	48.6
評価の観点	知識・技能	12	61.2	60.1
	思考・判断・表現	4	49.3	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	57.8	56.0
	短答式	8	60.4	59.7
	記述式	3	53.3	48.5

（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（%）			無解答率（%）	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
1（1）	一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	5(4) 7(4)					○				○		81.2	72.7	8.5	0.6	1.3
1（2）	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	2(1) 7(2) 7(7)					○				○		59.7	63.0	-3.3	0.8	1.7
1（3）	1立方センチメートルの立方体を36個使ってきた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる	5(4) 7(7)					○				○		37.5	40.1	-2.6	2.0	4.2
1（4）	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体の送料の求め方とその答えを書く	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	2(2) 7(7)	4(2) 7(7)			3(1) 7(7)	○				○		44.4	45.2	-0.8	4.0	5.8
2（1）	74291の百の位の数を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	4(2) 7(4)					○				○		68.2	66.5	1.7	0.4	1.0
2（2）	インガメ14匹が動物園全体のカメラの数の20%に当たる時の、動物園全体のカメラの数を求める式と答えを書く	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる				5(3) 7(4)		○				○		53.8	53.1	0.7	3.7	7.2
2（3）	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる				5(2) 7(7)		○				○		37.2	36.1	1.1	0.6	1.6
2（4）	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	4(4) 7(7)			5(3) 7(7)		○				○		33.9	34.2	-0.3	0.7	1.5
3（1）	1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	4(4) 7(4)					○				○		95.3	94.5	0.8	0.5	1.0
3（2）	二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37-5と5-3.76を計算する	整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる	4(4) 7(7)					○				○		62.5	58.1	4.4	1.0	2.2
3（3）	7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	4(5) 7(7) 7(4) 7(7) 7(7) 7(7)					○				○		50.2	44.0	6.2	1.5	3.2
3（4）	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ	単位分数の倍数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	3(6) 7(7) 7(4)					○				○		70.9	68.1	2.8	1.1	2.7
4（1）	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) 7(7)	○				○		65.3	56.2	9.1	1.9	3.7
4（2）	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	2(2) 7(7) 3(4) 7(7)			3(2) 7(4)		○				○		77.0	78.1	-1.1	2.1	3.4
4（3）	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる					4(1) 7(7)	○				○		16.2	17.9	-1.7	2.0	3.9
4（4）	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ	帯グラフの特徴と使い方理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる					5(1) 7(7)	○				○		78.7	74.9	3.8	3.9	6.9

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

今回の調査からわかったこと

▶成果 理由を説明する力 <大問3(3)>

分母の異なる分数の大小を、「もとにする数」に着目し通分するなどして、判断する理由を数や言葉を用いて説明することができている。

▶課題 除法の式や商の意味を理解する <大問2(3)>

単位量当たり（1当たり）の大きさを求める除法の式や商が何を表しているのかについての理解が十分でない。

授業づくりのポイント

📄取り上げる問題：大問2（3）

育成したい資質・能力（問題の趣旨）

- ▶ 単位量当たり（1当たり）の大きさを求める除法の式の意味を理解している。
- ▶ 商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる。

予想される児童のつまずき（誤答傾向）

何のためにわり算をしているのか、その式が何を求めているのかが理解できていない。

👤 混み具合はどうしたら比べられるのか、「一方をそろえたら比べられる」という考え方が理解できていないまま、計算処理だけを行ってしまっている。

🔍算数の深い学び

数学的活動の充実（特に、問題解決に向かう場面）

算数科において、具体物や図、数、式、表、グラフ等を使ってどのように考えたかを説明したり、友達と考えを伝え合ったり、学びを振り返ったりする場面を充実させ、考え方を明らかにすることで深い学びが実現する。

児童が「どうすれば解決できるのか」、「前に習ったあの考え方が使えるかも」と主体的に解決に向かうことが大切である。そして、答えを出して終わりとせず、「考え方は前と同じだったな」、「この考え方は違う場面でも使えるかな」などと考えることで、さらに学びが深まっていく。

📌ここがポイント！

数直線と対応させて、除法の式の意味を理解することにつなげる

引き出したい児童の「思考の姿」

広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数(羽)	面積(m ²)
A	10	20
B	12	30

児童の思考を動かす 教師の働きかけ

👤 前の問題との違いに気付く児童を、価値付ける。

👤 どうして $10 \div 20$ をするのか、図を使って説明させる。

👤 どのように考えて比べたのかを明らかにする。

👤 どちらかの数がそろっていたら比べられたけど、表を見るとペンギンの数も面積もそろっていないな。どうしたら比べられるだろう？

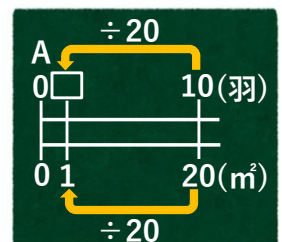
👤 どちらかがそろっていたら比べられたから、どちらかにそろえれば比べられるのではないかな。

👤 どうやったらそろえられるかな？

👤 Aの広場もBの広場も面積を1にそろえてみたらどうだろう。

👤 Aの広場だと20m²を1m²にするってこと？どうやって？

👤 面積をもとにする量の1にして、数直線に表してみると・・・



面積を1にそろえるから、ペンギンの数を求める式は $10 \div 20$ にすればいいんだね。同じようにBの広場も数直線に表してみると、式もつくれそうだね。

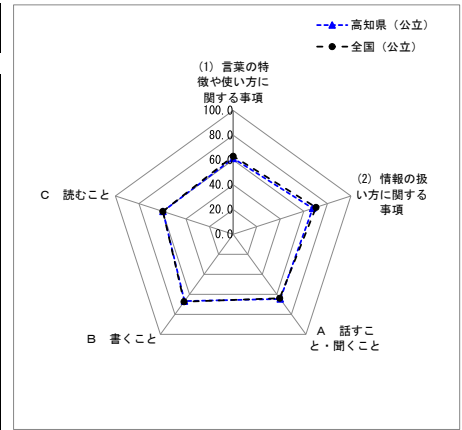
・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	高知県（公立）	全国（公立）
	90	9,098		3,553	841,873

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				高知県（公立）	全国（公立）
全体			15	63.1	63.9
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	61.3	63.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	67.6	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.7	63.9
		B 書くこと	3	66.8	67.4
		C 読むこと	3	59.6	59.7
	評価の観点	知識・技能	6	62.4	64.2
思考・判断・表現		9	63.7	63.7	
主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式	9	71.7	72.7	
	短答式	3	53.3	55.8	
	記述式	3	47.4	45.5	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（%）			無解答率（%）	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと											
1一	「可能な意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	2オ						○			○			82.4	84.3	-1.9	0.1	0.2
1二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	単語の類別について理解しているかどうかをみる	1エ						○			○			72.0	70.2	1.8	0.3	0.3
1三	「ら抜き言葉」であるものを選択する	単語の活用について理解しているかどうかをみる	2オ						○			○			85.3	85.4	-0.1	0.1	0.2
2一	発言について説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				1ア			○			○			67.4	68.5	-1.1	0.3	0.3
2二	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ			○			○			70.2	70.4	-0.2	0.3	0.3
2三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		2イ					○			○			67.6	70.4	-2.8	0.3	0.4
2四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる				2オ			○			○			56.4	52.7	3.7	11.6	14.7
3一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	2ウエ						○			○			31.1	39.8	-8.7	0.2	0.3
3二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	表現の効果を考え、描写することができるかどうかをみる				2ウ			○			○			93.0	92.3	0.7	4.0	4.8
3三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる				2イ			○			○			62.9	65.0	-2.1	0.4	0.5
3四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後読者を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる				2オ			○			○			44.5	45.0	-0.5	9.2	10.7
4一	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる						1ア	○			○			70.5	71.6	-1.1	0.5	0.7
4二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	1ウ						○			○			35.7	35.2	0.5	16.5	19.8
4三	文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる						1ウ	○			○			67.0	68.7	-1.7	1.0	1.1
4四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子や擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる						1オ	○			○			41.2	38.9	2.3	15.3	18.6

今回の調査からわかったこと

- ▶ **成果** 日常的な言葉の働きや使い方を捉え、活用すること <大問2(四)>
生活に密着している言葉については、目的・場面に応じて適切に捉え、表現に生かすことができている。
- ▶ **課題** 考えを形成するための言葉に着目して内容や表現を吟味すること
<大問3(四)、4(四)>
話や文章を理解したり表現したりする際に、言葉に着目して吟味する経験が十分でない。

授業づくりのポイント

取り上げる問題：大問4(二)(四)

育成したい資質・能力(問題の趣旨)

- ▶ 語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えることができる。
- ▶ 文章を読み理解したことに基づき自分の考えをまとめることができる。

予想される生徒のつまずき(誤答傾向)

「擬態語の効果」に対する自分の考えと文章を読んで理解したことが正確に結び付いていない。

 本文中の言葉を正確に用いて擬態語の効果を表すことができているなど、自分の考えを確かなものにするための言葉の吟味をさせていない。

国語の深い学び

自分の考えを形成するための言葉に着目したり吟味したりする

生徒が主体的に言葉に着目し、**学習過程を通して理解したことを、視点をもって他者と共有したうえで、読み取ったことを振り返る**ことで、自分の考えを確かなものに行うことができる「深い学び」へとつながる。

ここがポイント!

他者との共有や読み取ったことの振り返りで言葉を吟味する

言葉に着目したり捉え直したりする生徒の姿

擬態語の効果について、本文では「様子をほうふつとさせる」と書いているけど、「ほうふつ」は、辞書にある「はっきりと脳裏に思い浮かぶこと」だと思ふよ。本文の他の段落では「ありありと映し出している」とも書いているね。

他者との共有



「きっぱり」という言葉からは、強い自信を持っている様子が伝わるね。本文にあるように、声の大きさや調子、言い方、表情などの全てを包括的に含んだイメージを得ることができるよ。

擬態語の効果について述べるためには、「イメージを想起させる」や「様子を映し出す」だけでなく、「包括的に」や「ありありと」という言葉をつけないと、正確に伝わらないな。

読み取ったことの振り返り

言葉を吟味するための教師の働きかけ

語句に対する理解を深めるための、表現の確認

その言葉は、辞書に載っているどの意味と同じ意味で使われているの？

根拠を明確にした内容の解釈

自分の考えを支える根拠となる段落や部分はどこになるの？

考えを形成するための、解釈の振り返り

共有したことを参考にして、もう一度自分の読み取ったことが正確かどうか振り返ってみましょう。



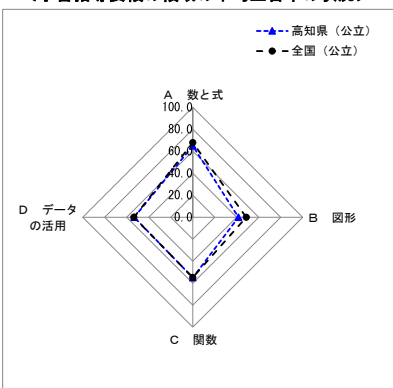
・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	高知県（公立）	全国（公立）
	90	9,095		3,552	842,491

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			高知県（公立）	全国（公立）
全体		16	54.3	57.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	64.9	67.8
	B 図形	4	41.6	48.7
	C 関数	3	55.0	54.8
	D データの活用	4	53.2	53.5
評価の観点	知識・技能	12	59.5	63.0
	思考・判断・表現	4	38.9	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	57.2	59.3
	短答式	9	60.2	64.2
	記述式	4	38.9	39.1

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
1	2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	1(1) 7(9)					○			○		83.9	85.7	-1.8	0.4	0.6
2	$7x+9-5x+7x^2+2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	2(1) 7(9)					○			○		62.4	70.5	-8.1	2.3	2.2
3	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる		2(1) 7(9)				○			○		40.9	49.1	-8.2	2.6	2.8
4	反比例の表において、 x の値が -3 のときの y の値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる			1(1) 7(4)			○			○		52.2	55.3	-3.1	0.7	1.1
5	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる				2(2) 7(4)		○			○		57.0	60.2	-3.2	3.2	4.8
6(1)	選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	2(1) 7(3)					○			○		73.6	73.2	0.4	4.6	6.6
6(2)	陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを説明するための方針を完成するために、当てはまるものを選ぶ	事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる	2(1) 7(9)					○		○			62.3	65.0	-2.7	0.5	0.6
6(3)	手順にしたがってできたAとBについて、A-Bの値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)					○			○		42.5	44.6	-2.1	19.8	26.5
7(1)	動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる			1(1) 7(9)			○			○		73.6	75.2	-1.6	4.7	5.6
7(2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1(1) 7(4)			○			○		39.1	33.9	5.2	28.8	39.6
8(1)	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	1(1) 7(9)					○			○		55.8	62.5	-6.7	8.1	9.0
8(2)	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる		2(2) 7(4)				○			○		37.4	46.1	-8.7	21.1	22.2
8(3)	図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる		2(2) 7(4)				○		○			32.5	37.1	-4.6	0.8	1.0
9(1)	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) 7(9)					○			○		42.5	46.0	-3.5	10.5	14.3
9(2)	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる			2(1) 7(9)			○		○			76.8	75.8	1.0	0.5	0.7
9(3)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形的特徴を基に説明することができるかどうかをみる			1(1) 7(9)			○			○		36.4	31.9	4.5	23.8	28.9

今回の調査からわかったこと

- ▶ **成果** 問題解決の方法を数学的に説明する <大問7(2)>
関数の学習において、問題解決の過程や結果を振り返る場面において、問題解決した方法を振り返り、どのように解決したかを説明することができている。
- ▶ **課題** 数学的な表現で書かれた文章を読み取る <大問8(1)(2)(3)>
図形の学習において、「文章（作図の手順）」と「図（作図）」と「式（等しい関係など）」を関連付けることができていないため、問題を把握することが十分でない。

授業づくりのポイント

取り上げる問題：大問8

育成したい資質・能力（問題の趣旨）

- ▶ 事象の特徴を的確に捉えることができる
- ▶ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる
- ▶ 事象に即して解釈したことを数学的に表現することができる

予想される生徒のつまずき（誤答傾向）

数学的な表現で書かれた文章を読み取れていない姿



授業において問題発見・把握の場面が十分把握できないまま問題解決の学習活動を行っている。

数学の深い学び

数学的活動の充実（特に問題発見・把握の場面）

生徒自身が「どんな特徴や関係があるのか」「どうして成り立つのか」など【疑問】をもち、「文章」「図」「式」を関連付けながら問題を把握することで、主体的に問題解決する「深い学び」へとつながる。

ここがポイント！

主体的に「文章」「図」「式」を関連付けながら問題を把握する

引き出したい生徒の「思考の姿」

【「文章」「図」を関連付けて作図している姿】

コンパスを使って、点Aを中心に半径ABの円をかくということは、点Aから等しい長さをとるってことかな。

【証明の必要性を感じている姿】

角度が変わっても同じかき方でかけるのかな？ いろんな角度でかいて確かめても必ず成り立つといえないから証明が必要だ。

【「文章」「図」「式」を関連付けて結論を見いだす姿】

この手順で角が2倍になるということは、図で見ると $\angle AOB$ と $\angle AOP$ の角の大きさが等しいな。ということは $\angle AOB = \angle AOP$ を証明すればいいんだ。

教師の働きかけのねらい

【内容（作図）の理解】

「文章」と「図」を関連させながら作図させることで内容を理解させる。また、等しい辺や角を意識させるため、既習を想起させる発問をする。

【証明への動機付け】

なぜこの方法で2倍の大きさの角がかけられるのか、どんな場合でも角の大きさが2倍になるのかを問い返すことで、問いをもたせたり証明の必要性を感じさせたりする。

【数学的な問題解決に向かう】

生徒自身が何を証明するのか（結論）、何がわかっているのか（仮定）を見いだすことで自ら問題解決に向かわせる。また、仮定や結論を見いだすなかで、「文章」「図」「式」を関連付けさせる。

・以下の集計値は、4月20日から4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。
※「予測正答率」や「問題の難易度」を示す対象としない問題については空欄となっている。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		正答率(%)		無解答率(%)		問題の難易度	対象生徒数	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと 「やり取り」	(4) 話すこと 「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	高知県（公立）	全国（公立）	高知県（公立）	全国（公立）		高知県（公立）	全国（公立）
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○		55.2	60.2	0.2	0.2	4	3,602	839,203
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき館を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○		73.7	78.5	0.3	0.1	3	1,241	287,687
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○		69.9	76.0	0.0	0.1	3	1,171	275,718
4	職場体験についての発表を聞き、その後に表示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ						○		○		36.2	43.8	0.4	0.3	4	1,190	275,798
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○		46.5	55.6	0.4	0.2	4	3,602	839,203
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○		64.7	67.3	1.1	1.1	3	3,602	839,203
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア						○		○		67.1	72.4	0.0	0.1	3	1,279	288,327
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア						○		○		57.3	63.8	0.1	0.1	3	1,165	275,477
9	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ						○		○		44.6	49.0	0.3	0.1	5	1,158	275,399
10(1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	ウ						○		○		37.3	47.5	0.2	0.2	4	3,602	839,203
10(2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○		○		23.8	27.8	13.7	14.6	5	3,602	839,203
11①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○			○		45.7	58.9	3.1	2.5	3	3,602	839,203
11②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○			○		40.4	52.7	3.6	3.0	3	3,602	839,203
12	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○		○		47.0	47.5	7.7	8.7	4	1,253	288,219
13	留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○		○		41.7	44.0	9.8	9.3	4	1,165	275,477
14	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○		○		23.8	27.8	11.5	14.2	4	1,184	275,507

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

今回の調査からわかったこと

- ▶ **成果** まとまりのある文章を書くこと <大問12、13、14>
目的や場面、状況等に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、全体として一貫性（まとまり）のある文章で書くことができています。
- ▶ **課題** 読み手に正しく伝わるように、知識を活用して書くこと <大問11、14>
読み手に正しく伝わるように、適切な表現や文法等を自ら判断または選択することが十分でない。

授業づくりのポイント

取り上げる問題：大問14

育成したい資質・能力（問題の趣旨）

- ▶ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。

予想される生徒のつまずき（誤答傾向）

- 文法事項などの知識を活用して正確に書く力が十分に定着していない姿
- 👤 即興的なやり取りにおいて「多少不正確でも意味が通じた」経験等から、読み手に正確に伝える視点が不足し、学んだ知識を十分に活用できていない。

英語の深い学び

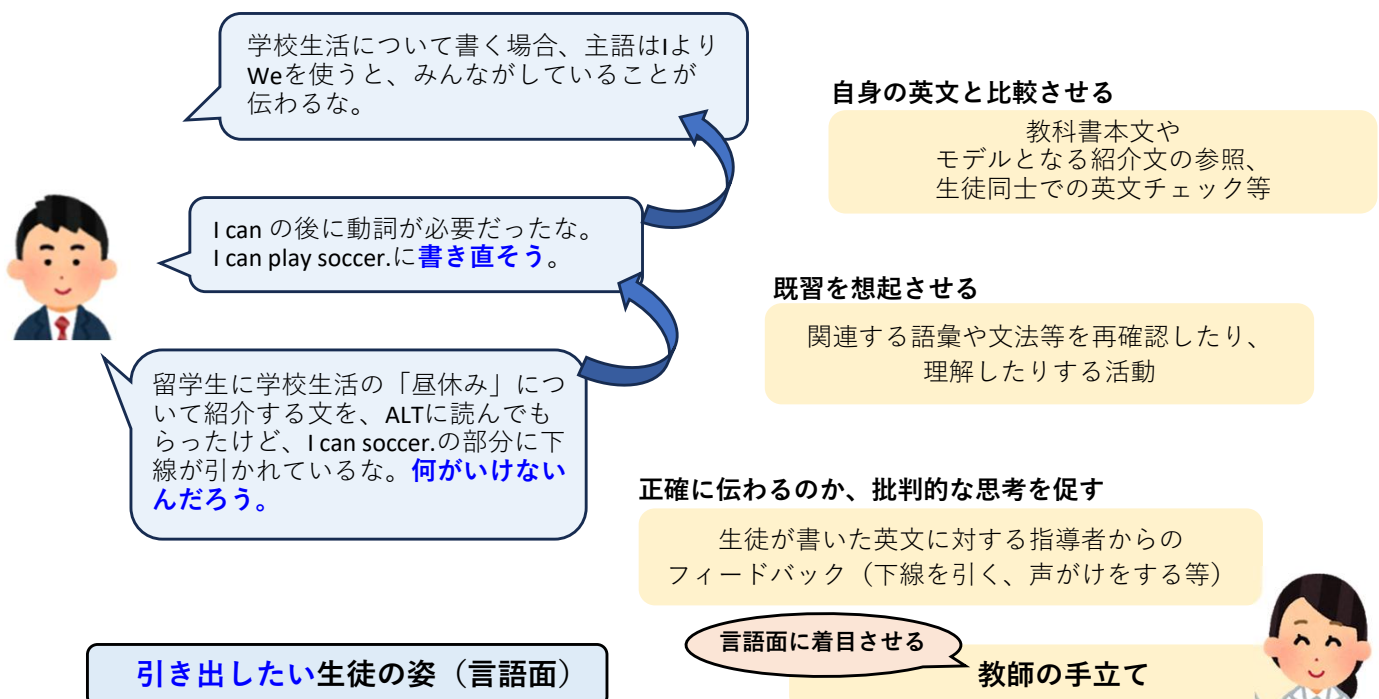
目的や場面、状況等に応じて、「見方・考え方」を働かせ、読み手に正確に伝える

目指すゴールの姿に向かって、単元を通して、「**内容面**」と「**言語面**」の指導を**バランスよく組み合わせる**ことが重要である。この指導を通して、**表現を精査する力**が育成され、生徒は両方の視点を踏まえた「見方・考え方」を働かせるようになり、伝えたい内容を読み手に正確に伝える「深い学び」へとつながっていく。

そのためには、自分が書いた英文を他者に読んでもらってアドバイスをもらったり、参考となる英文と比較させたりすることで、表現の**間違いや不足に自ら気付かせる**ことが重要である。さらに、既習の知識（語彙や表現、文法等）を言語活動の中で**繰り返し活用**することで、確かな習熟へと向かっていく。

ここがポイント！

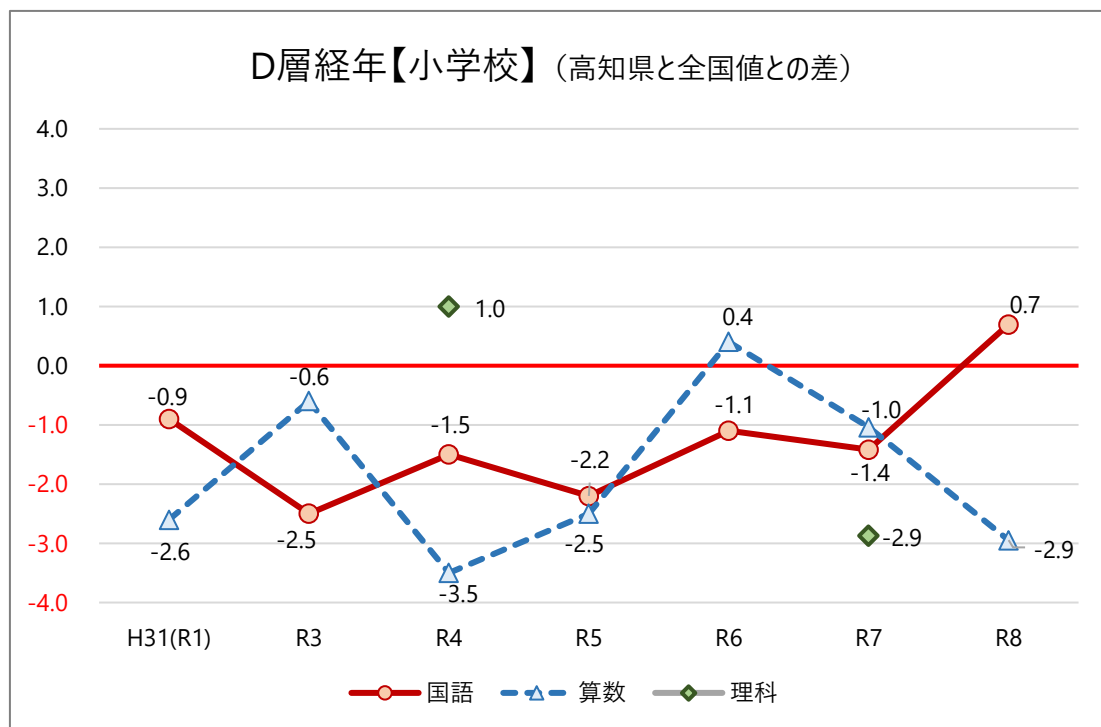
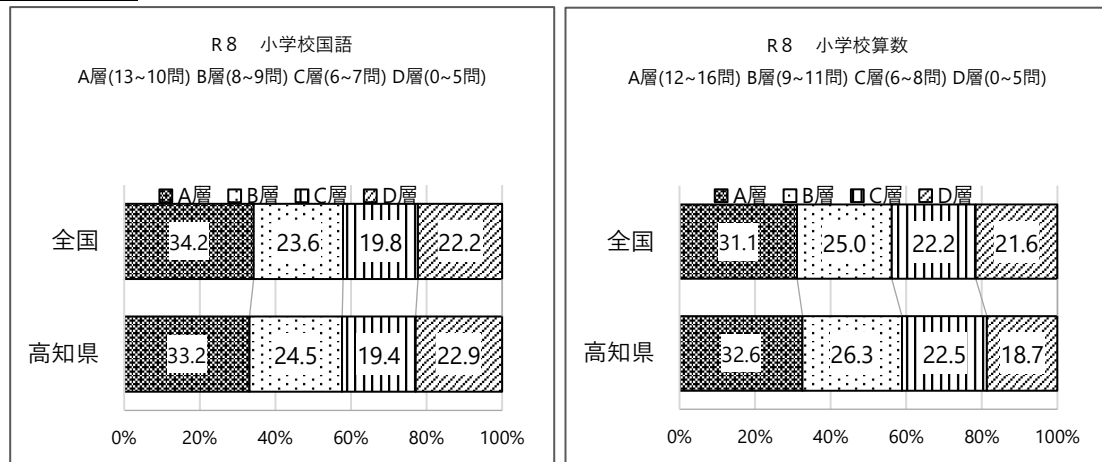
生徒が自らの英語表現（言語面）を振り返り、正確に伝わるものに再構築できる授業へ



正答数ごとの層分布

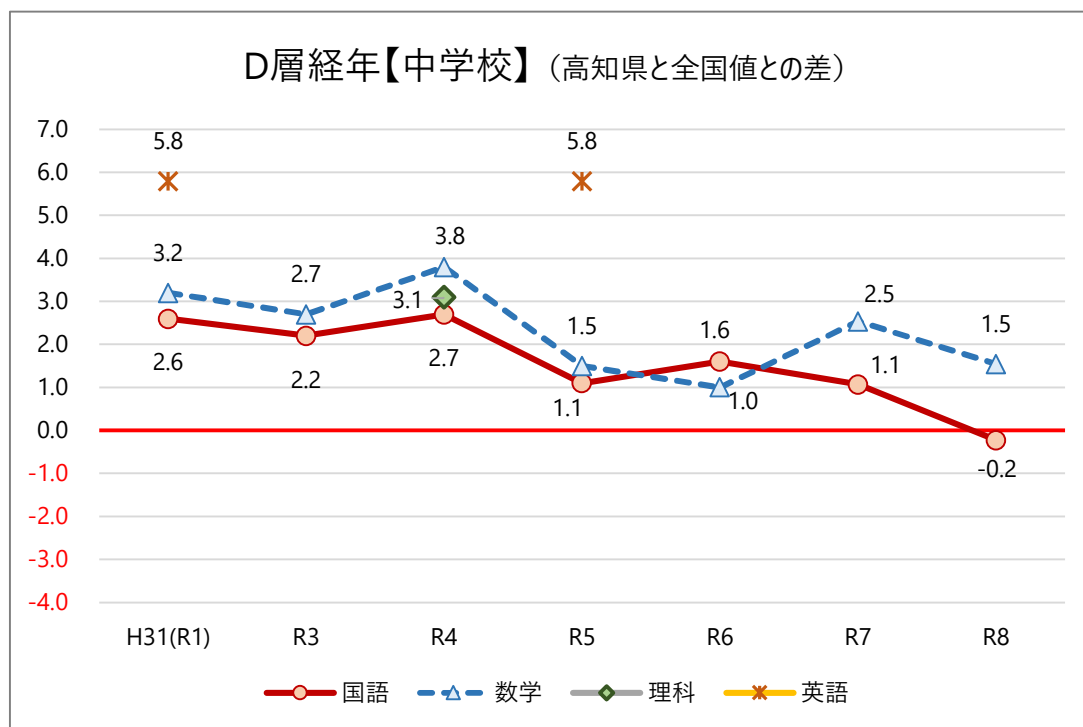
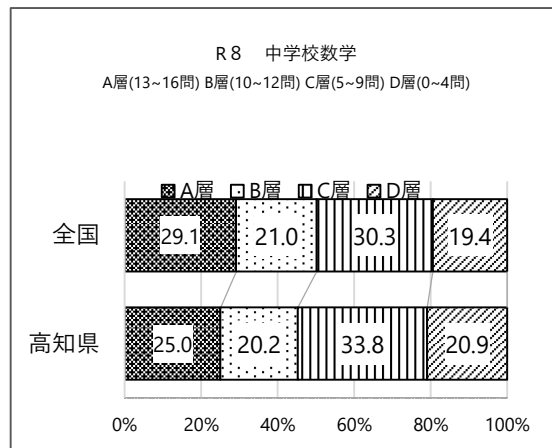
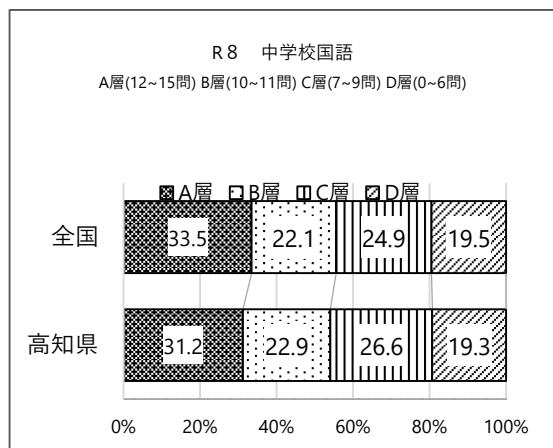
全国学力・学習状況調査 正答数分布 4 階層

小学校



全国学力・学習状況調査 正答数分布 4 階層

中学校



質問調査

経年結果

(※第3期大綱・第4期基本計画の基本目標3の測定指標を含む)

1. 基本的生活習慣等
2. 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
3. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
4. 学習に対する興味・関心や授業の理解度等
5. ICT を活用した学習状況
6. 授業外学習（家庭学習等）を中心とした学習習慣の定着
7. 将来を見据えたキャリア形成
8. 学校運営・教職員の資質向上に関する状況

学力との関係

- ・学習者主体の学びと学力との関係
- ・授業外学習（家庭学習）・生活習慣と学力との関係

1 基本的生活習慣等

児童・生徒
質問調査

(1)

朝食を毎日食べていますか

高知県（経年）

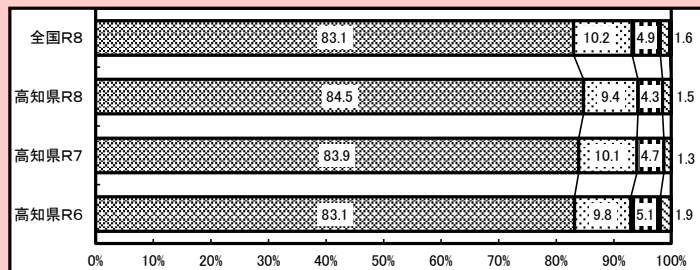
■ している

■ どちらかといえば、している

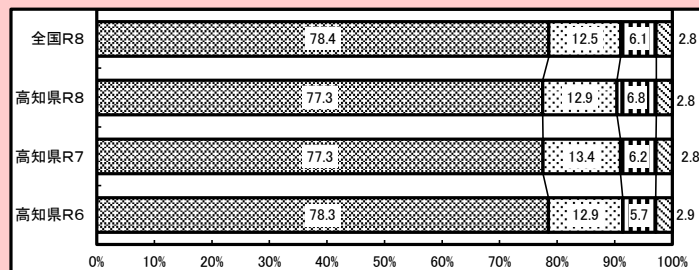
■ あまりしていない

■ 全くしていない

小学校



中学校



「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて（県の測定指標「全国平均以上」）、小学校では、1.4ポイント上回っているが、中学校では1.1ポイント下回っている。また、令和7年度と比べると、小学校では0.6ポイント増加し、中学校では同ポイントである。

児童・生徒
質問調査

(2)

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

高知県（経年）

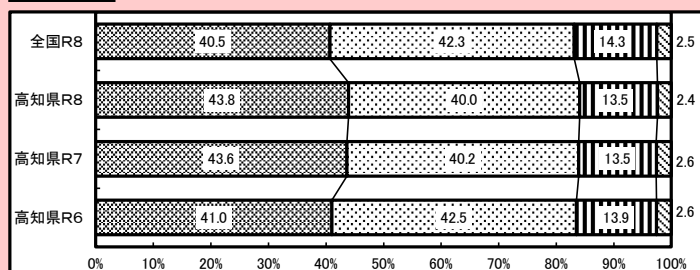
■ している

■ どちらかといえば、している

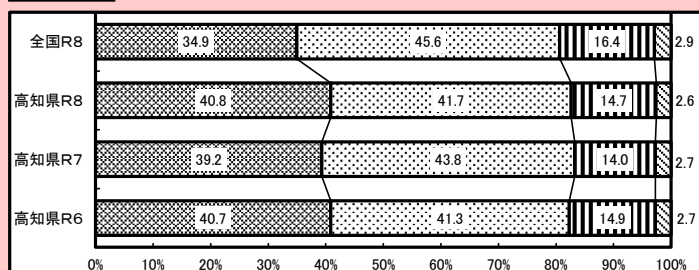
■ あまりしていない

■ 全くしていない

小学校



中学校



「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて（県の測定指標「全国平均以上」）、小学校では1.0ポイント、中学校では2.0ポイント上回っている。令和7年度と比べると小学校では同ポイントで、中学校では0.5ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

(3)

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

高知県（経年）

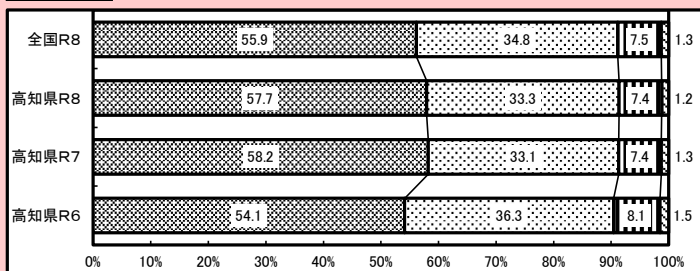
■ している

■ どちらかといえば、している

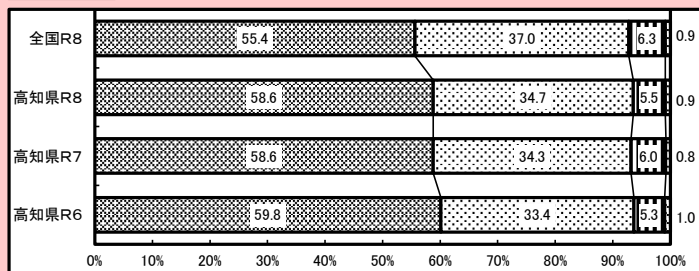
■ あまりしていない

■ 全くしていない

小学校



中学校



「毎日同じくらいの時刻に起きています」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて（県の測定指標「全国平均以上」）、小学校では0.3ポイント、中学校では0.9ポイント上回っている。また、令和7年度と比べると小学校では0.3ポイント減少しているが、中学校では0.4ポイント増加している。

2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

児童・生徒
質問調査

(8)

自分には、よいところがあると思いますか

高知県 (経年)

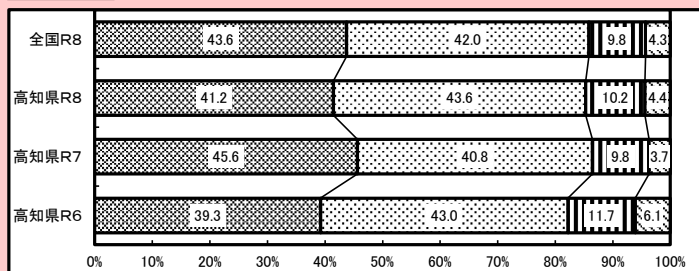
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

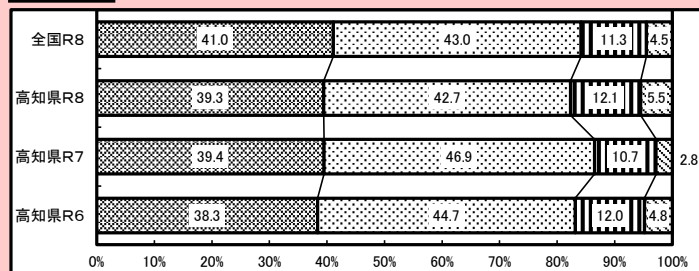
どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

小学校



中学校



「自分にはよいところがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では0.8ポイント、中学校では2.0ポイント下回っている。また、令和7年度と比べると（県の測定指標「肯定的割合の向上」）、小学校では1.6ポイント、中学校では4.3ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

(11)

人が困っているときは、進んで助けていますか

高知県 (経年)

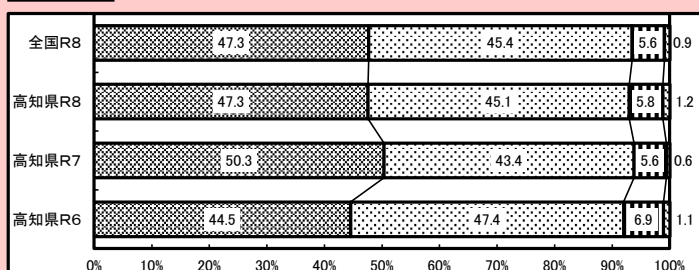
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

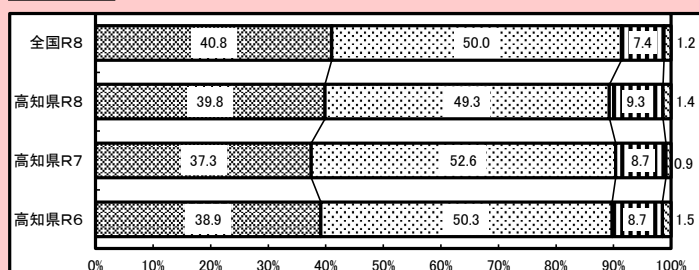
どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

小学校



中学校



「人が困っているときは、進んで助けている」に肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では0.3ポイント、中学校では1.7ポイント下回っている。また、令和7年度と比べると、小学校では1.3ポイント、中学校では0.8ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

(16)

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

高知県 (経年)

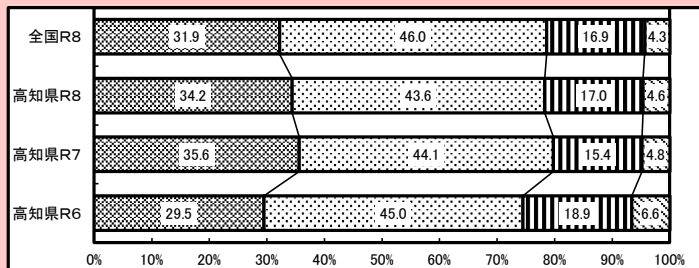
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

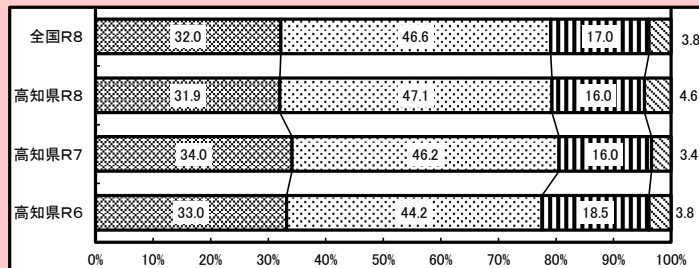
どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

小学校



中学校



「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では0.1ポイント下回り、中学校では0.4ポイント上回っている。令和7年度と比べると（県の測定指標「肯定的割合の向上」）、小学校では1.9ポイント、中学校では1.2ポイント減少している。

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

児童・生徒
質問調査

(22)

分からないことやわしく〔詳しく〕知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

高知県（経年）

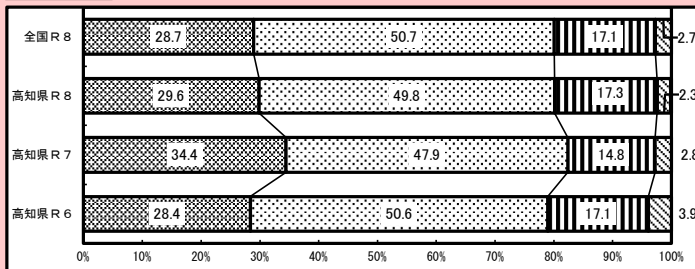
できている

どちらかといえば、できている

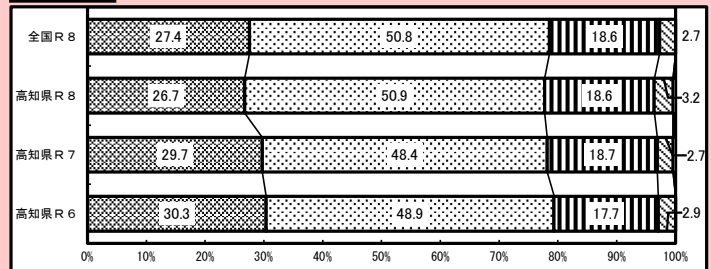
どちらかといえば、できていない

できていない

小学校



中学校



「自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校は0.9ポイント上回ったが、中学校では0.7ポイント下回っている。令和7年度と比べると、小学校では4.8ポイント、中学校では3.0ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

(39)

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

高知県（経年）

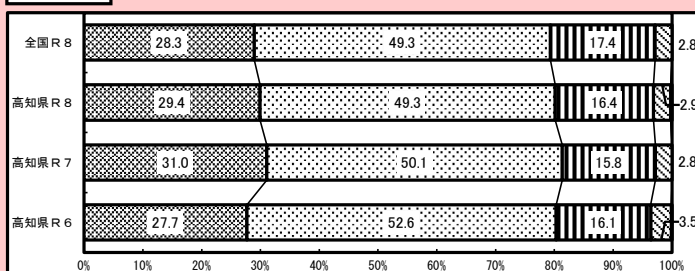
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

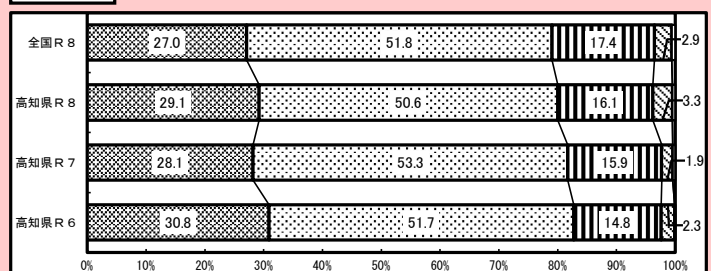
どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

小学校



中学校



「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校は1.1ポイント、中学校は0.9ポイント上回っている。しかし、令和7年度と比べると、小学校では2.4ポイント、中学校では1.7ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

(42)

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

高知県（経年）

当てはまる

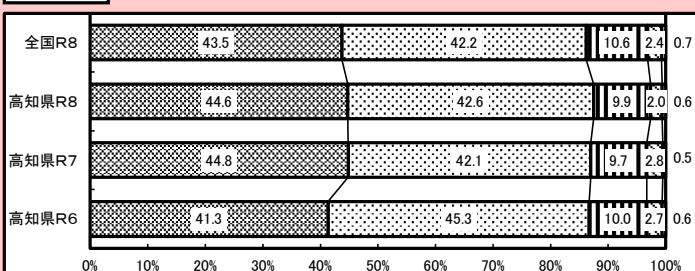
どちらかといえば、当てはまる

どちらかといえば、当てはまらない

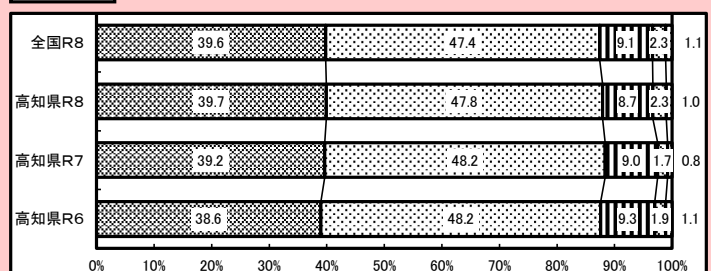
当てはまらない

学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない

小学校



中学校



「友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりことができる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校は1.5ポイント、中学校は0.5ポイント上回っている。また、令和7年度と比べると、小学校では0.3ポイント、中学校では0.1ポイント増加している。

4 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

児童・生徒
質問調査

(55)

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

高知県（経年）

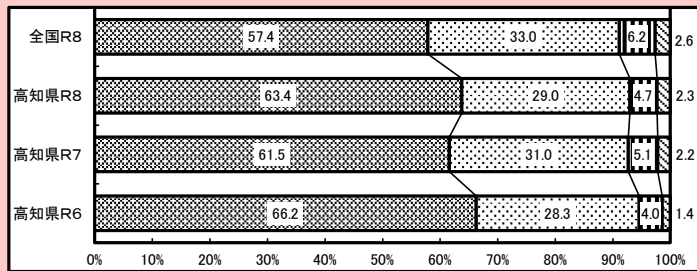
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

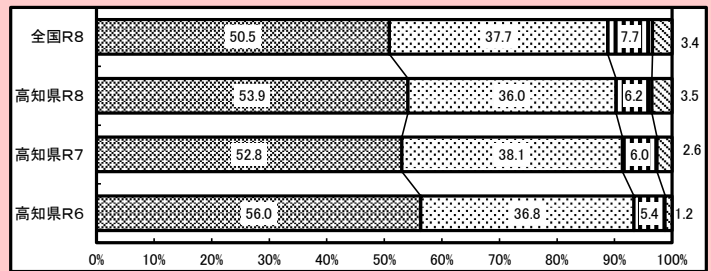
どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

小学校



中学校



「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では2.0ポイント、中学校では1.7ポイント上回っている。しかし、令和7年度と比べると、小学校では0.1ポイント、中学校では1.0ポイント減少している。

児童・生徒
質問調査

(63)

算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

高知県（経年）

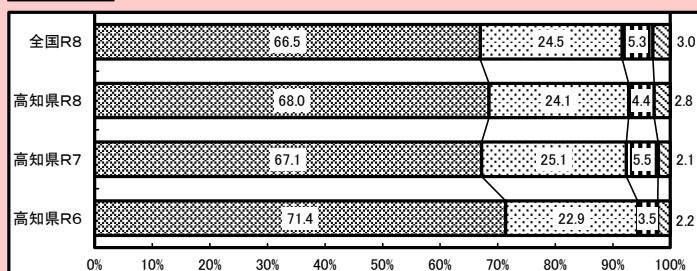
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

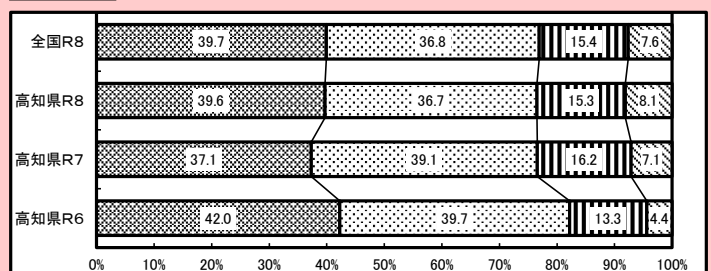
どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

小学校



中学校



「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では1.1ポイント上回っているが、中学校では0.2ポイント下回っている。令和7年度と比べると、小学校では0.1ポイント減少し、中学校では0.1ポイント増加している。

児童・生徒
質問調査

(72)

英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

高知県（経年）

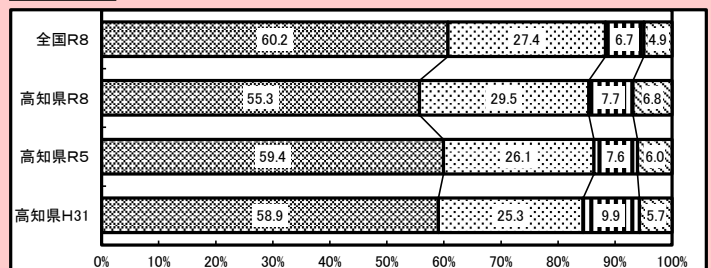
当てはまる

どちらかといえば、当てはまる

どちらかといえば、当てはまらない

当てはまらない

中学校



「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つ」と肯定的に回答した生徒の割合は、全国と比べて、2.8ポイント下回っている。また、令和7年度と比べると、0.7ポイント減少している。

5 ICTを活用した学習状況

児童・生徒
質問調査

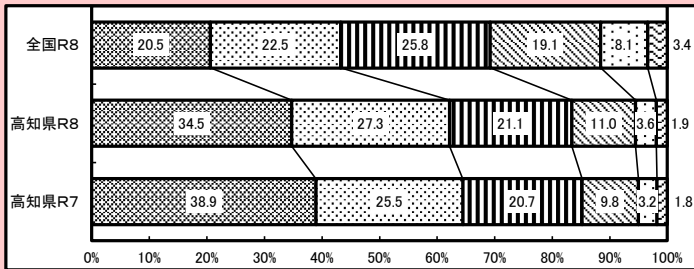
(35)

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

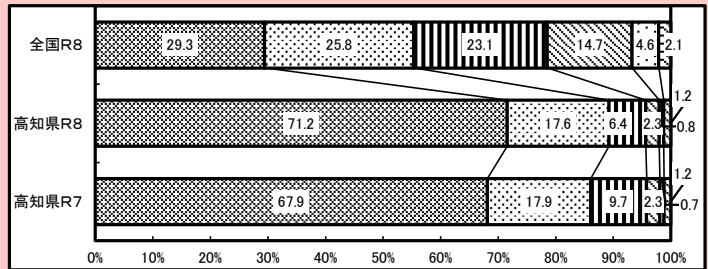
高知県（経年）

(ほぼ毎日(1日に複数の授業) (ほぼ毎日(1日に1回くらいに授業) (週3回以上
 (週1回以上 (月1回以上 (月1回未満

小学校



中学校



「PC・タブレットなどのICT機器を、毎日（1日に複数の授業で）活用した」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校では14ポイント、中学校では41.9ポイント上回っている。令和7年度と比べると、小学校では4.4ポイント減少しているが、中学校では3.3ポイント増加している。

学校
質問調査

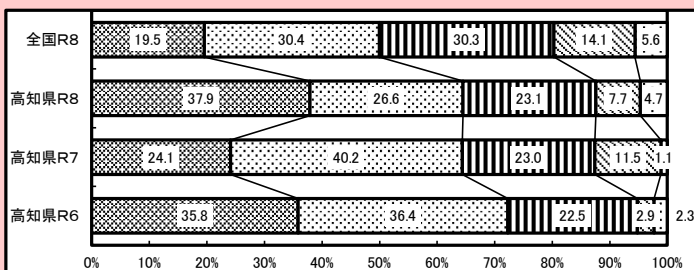
(65)
(73)

児童〔生徒〕が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

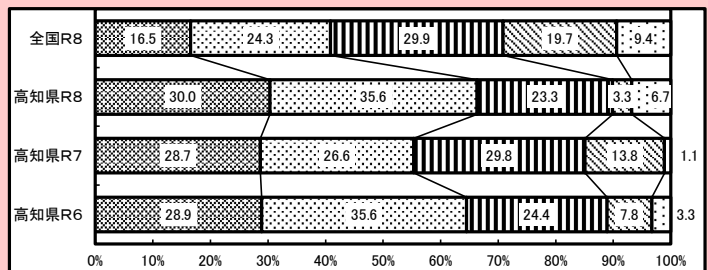
高知県（経年）

(ほぼ毎日 (週3回以上 (週1回以上 (月1回以上 (月1回未満

小学校



中学校



「特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」で、「ほぼ毎日」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は18.4ポイント、中学校は13.5ポイント上回っている。また、令和7年度と比べて、小学校は13.8ポイント、中学校は1.3ポイント増加している。

学校
質問調査

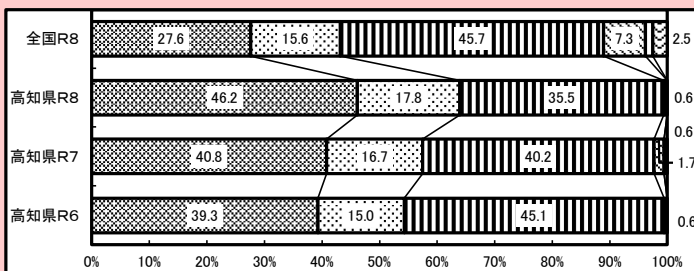
(67)
(75)

児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

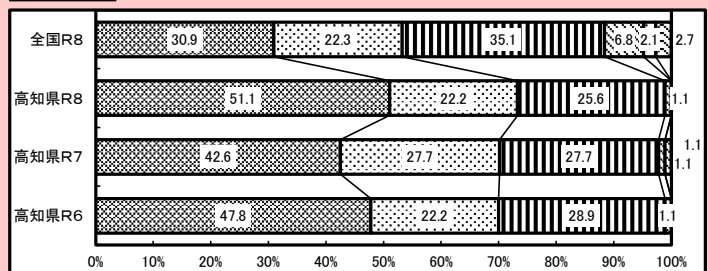
高知県（経年）

(毎日持ち帰り／毎日利用 (毎日持ち帰り／時々利用 (時々持ち帰り／時々利用
 (持ち帰らせていない (持ち帰ってはいいけない (臨時休業等の非常時のみ

小学校



中学校



「一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか」で「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は18.6ポイント、中学校は20.2ポイント上回っている。また、令和7年度と比べて、小学校は5.4ポイント、中学校は8.5ポイント増加している。

6 授業外学習（家庭学習等）を中心とした学習習慣の定着

児童・生徒
質問調査

(23)

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

高知県（経年）

3時間以上

2時間以上、3時間より少ない

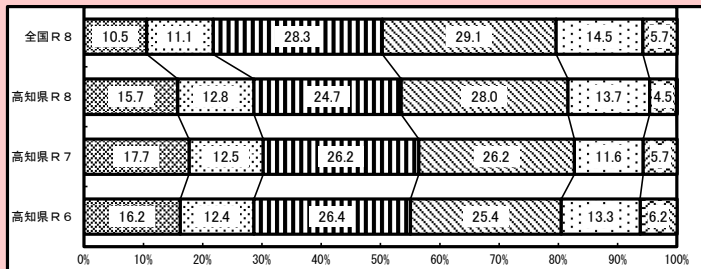
1時間以上、2時間より少ない

30分以上、1時間より少ない

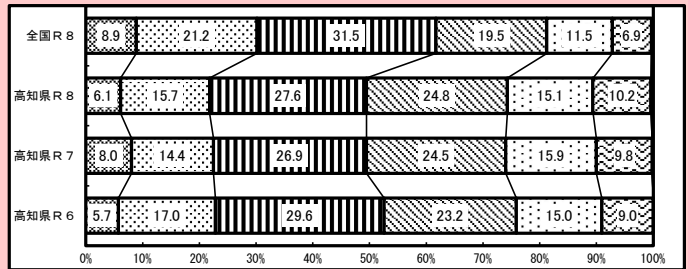
30分より少ない

全くしない

小学校



中学校



小学校においては、平日で1日あたりの勉強時間について、「全くしない」と回答した児童の割合は全国と比べて1.2ポイント下回っているが、中学校においては3.3ポイント上回っている。令和7年度と比べると、小学校では1.2ポイント減少しているが、中学校では0.4ポイント増加している。

児童・生徒
質問調査

(4)

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

高知県（経年）

4時間以上

3時間以上、4時間より少ない

2時間以上、3時間より少ない

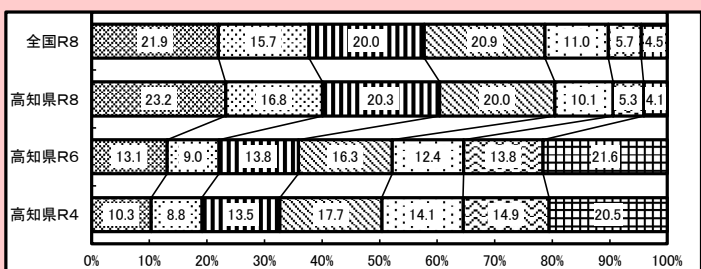
1時間以上、2時間より少ない

30分以上、1時間より少ない

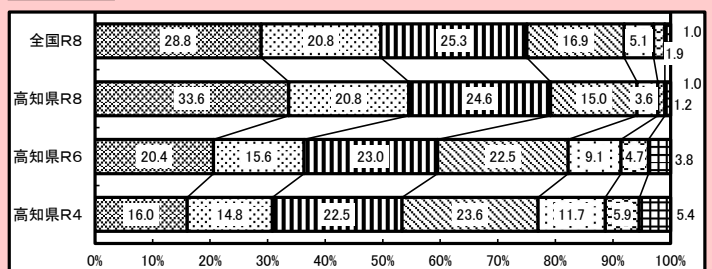
30分より少ない

スマートフォン等を持っていない

小学校



中学校



「平日、SNSや動画を視聴する時間」が1時間未満の児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校は1.3ポイント、中学校は2.2ポイント下回っている。令和6年度と比べると、小学校では10.8ポイント、中学校では9.0ポイント減少している。

学校
質問調査

(81)

(89)

家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか

高知県（経年）

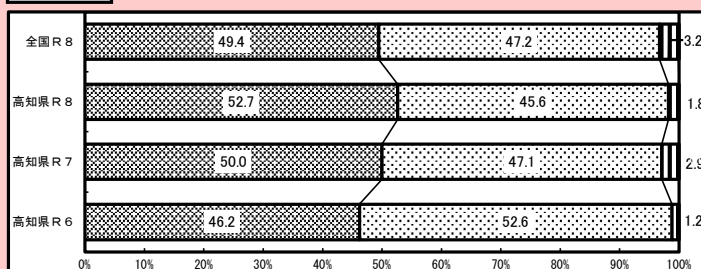
よく行った

どちらかといえば、行った

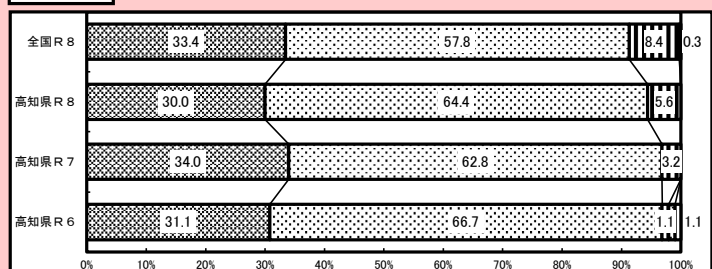
あまり行わなかった

全く行わなかった

小学校

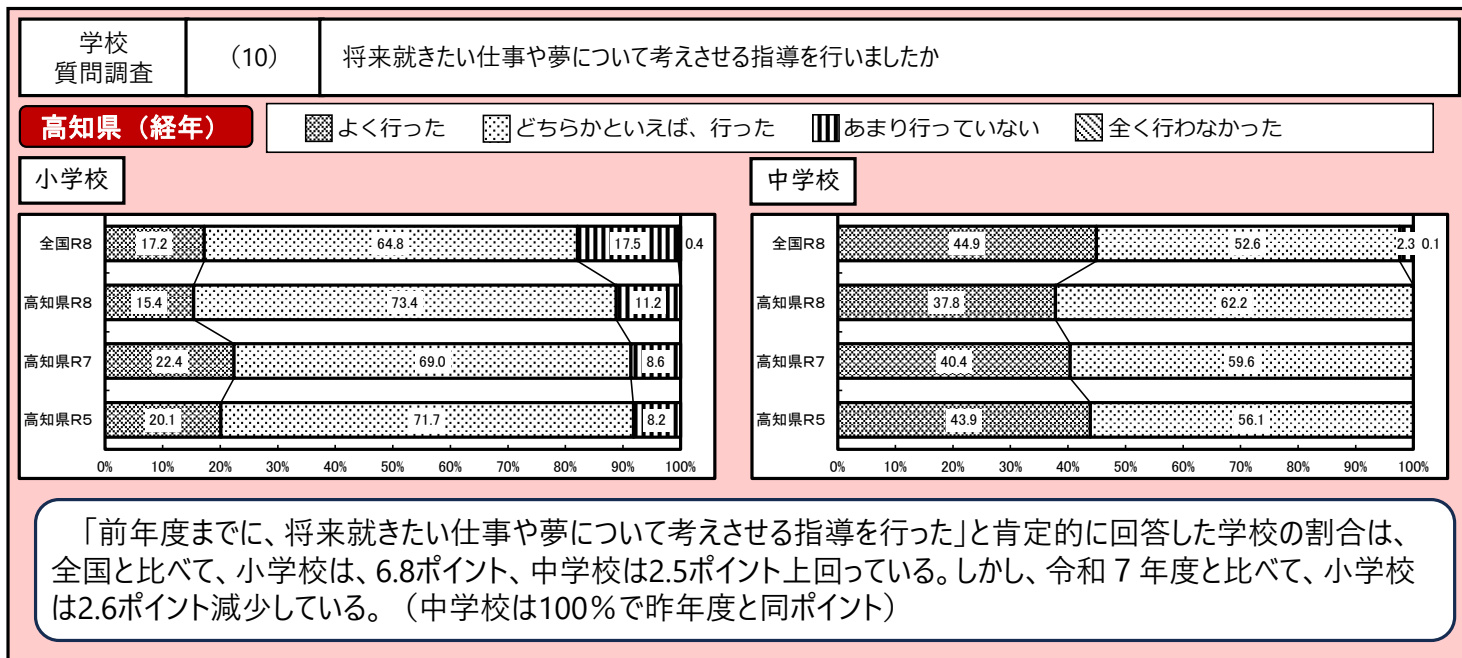
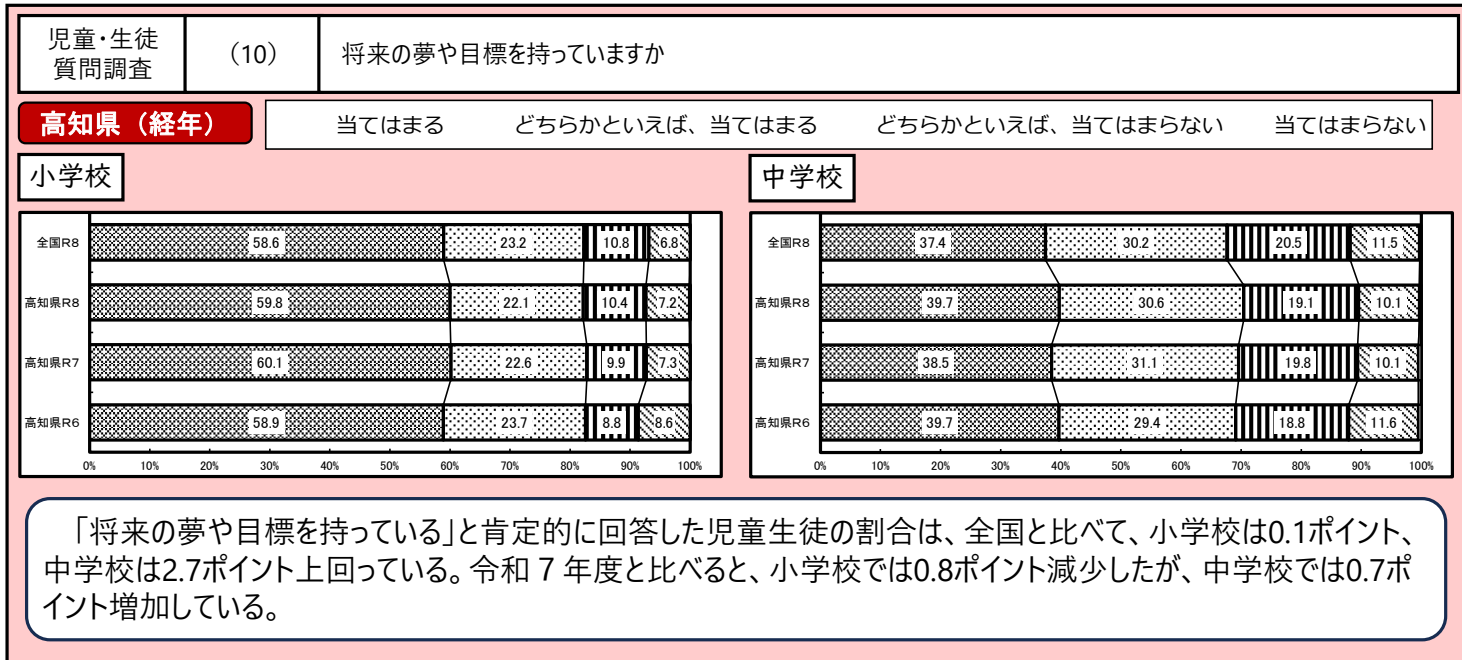
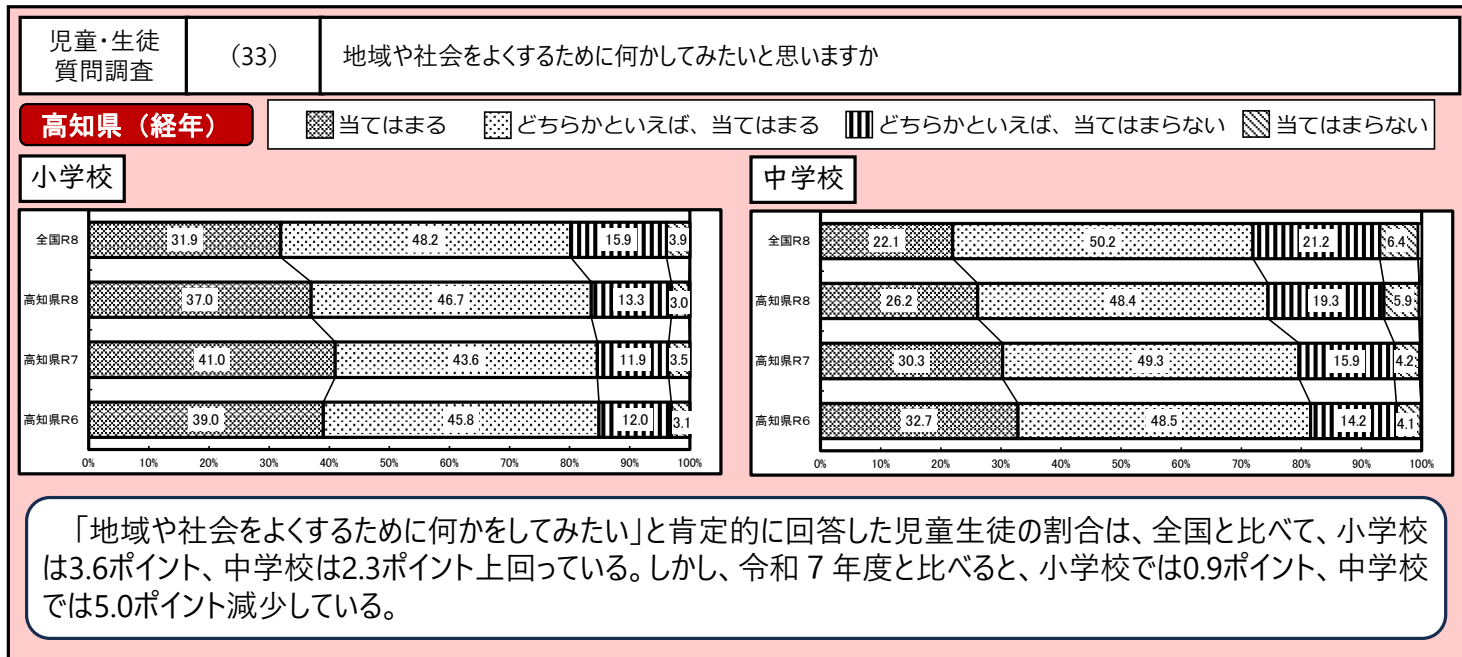


中学校

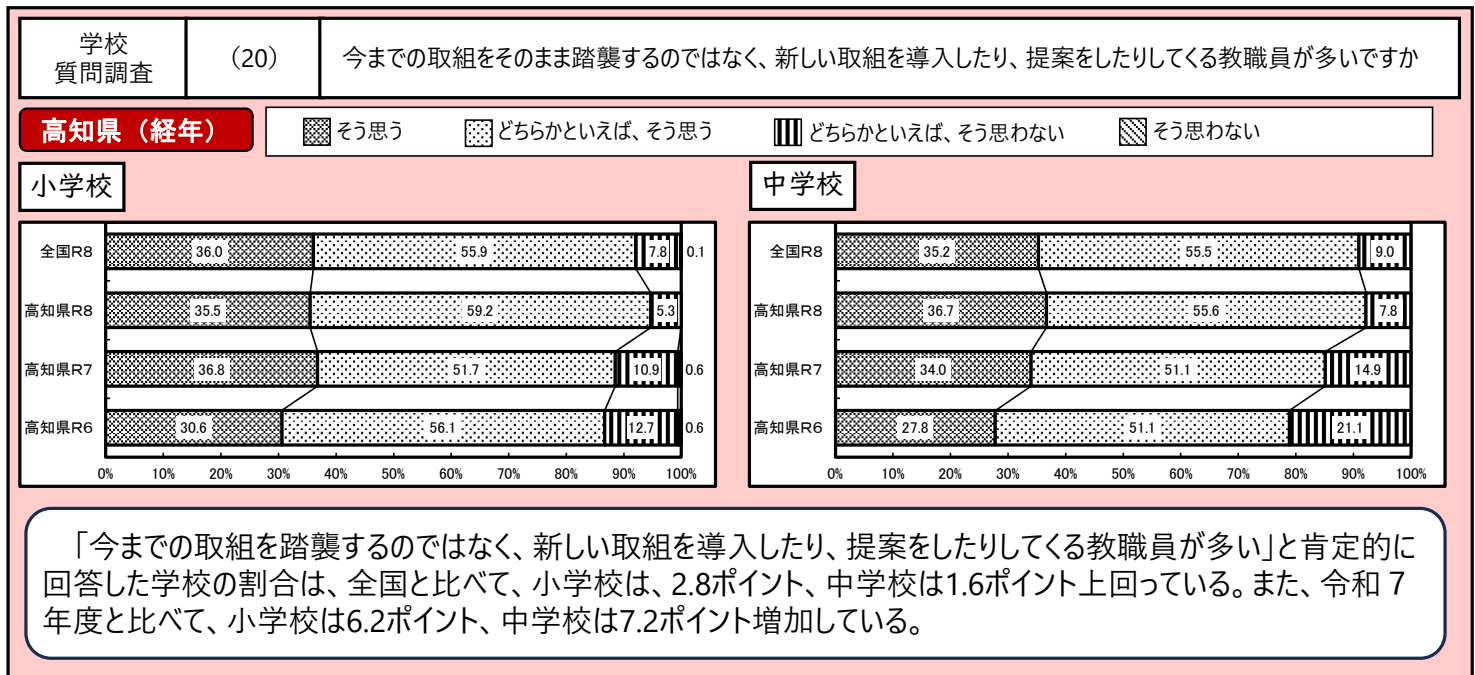
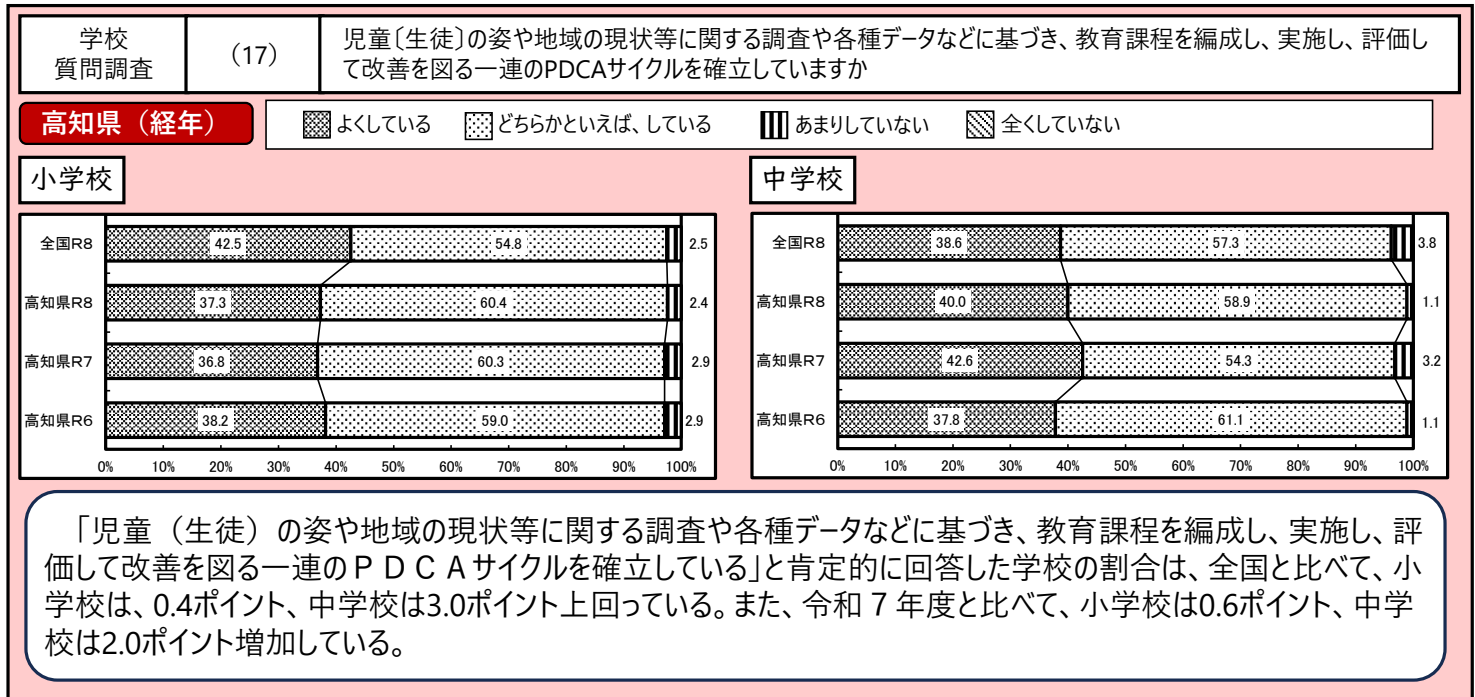


「前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた」と肯定的に回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は、1.7ポイント、中学校は3.2ポイント上回っている。しかし、令和7年度と比べて、小学校は1.2ポイント増加しているが、中学校は2.4ポイント減少している。

7 将来を見据えたキャリア形成



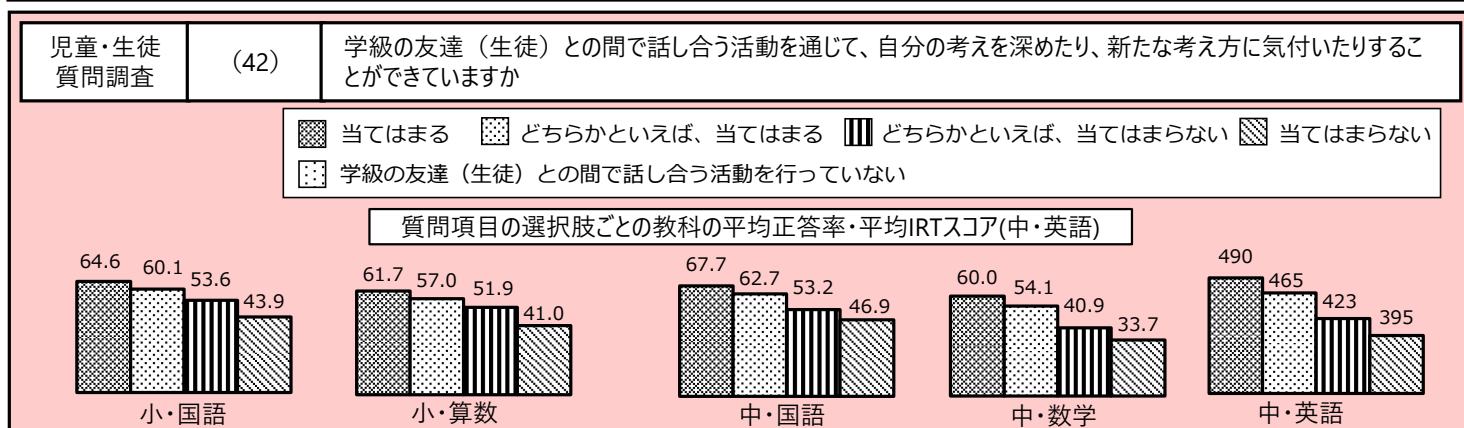
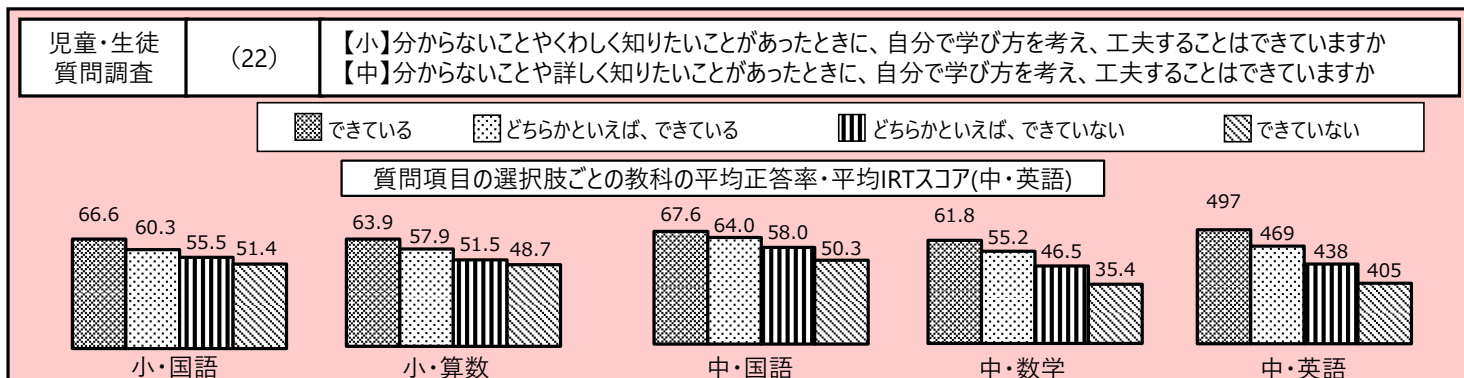
8 学校運営・教職員の資質向上に関する状況



学習者主体の学びと学力との関係

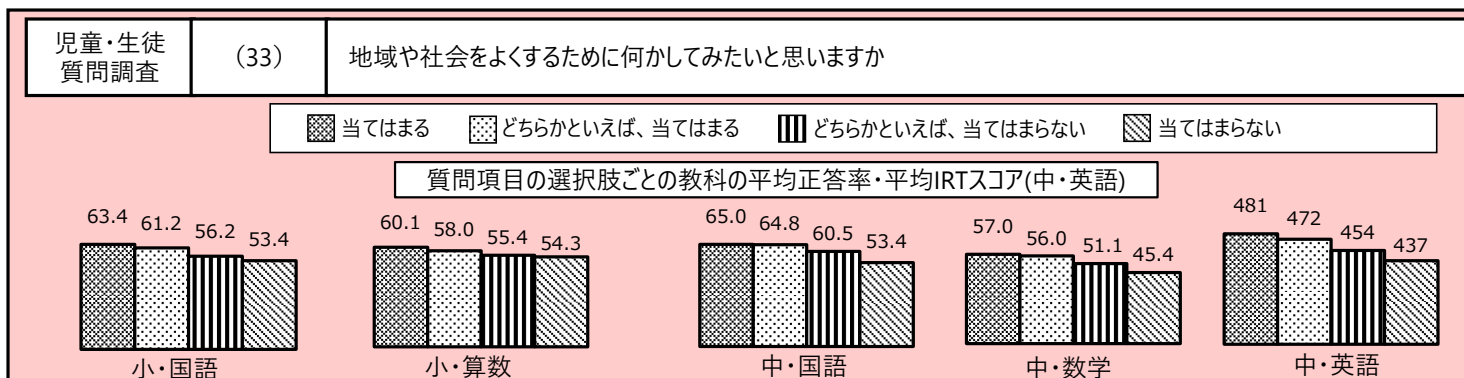
◆「主体的・対話的で深い学び」と学力との関係

「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられる。児童生徒が自ら考え、主体的に学びを深めていくことが、確かな学力の定着につながっている。



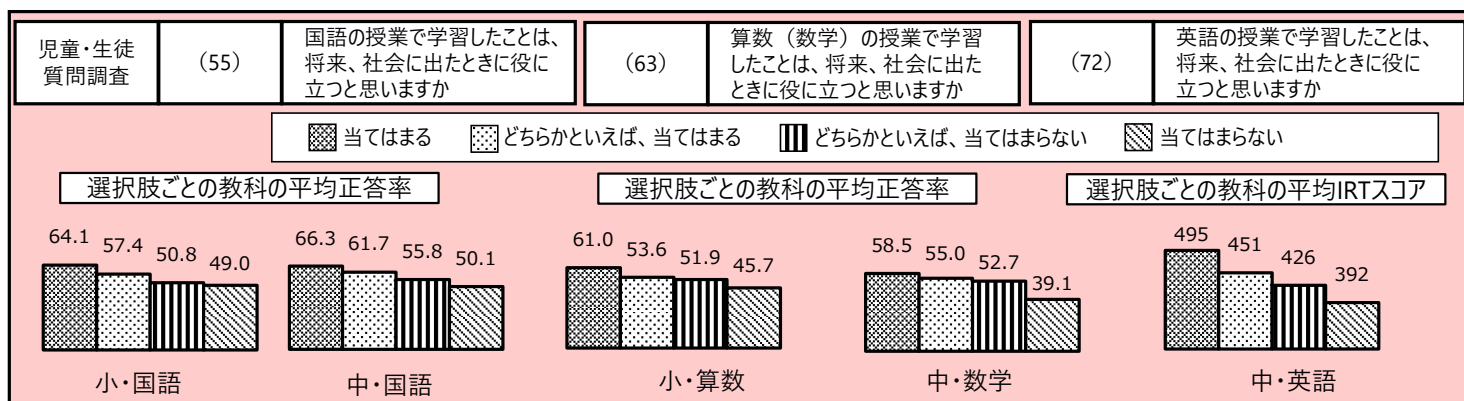
◆「キャリア形成」と学力との関係

「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答している児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられる。社会に関心を持ち貢献しようとする意欲が、学びを支える原動力となっている。



◆「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」と学力との関係

国語、算数・数学、英語などの各教科において、「学習が将来役に立つ」と実感している児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられる。『学ぶ価値』を実感することが『生きて働く力』につながっている。



◆「授業外学習の時間」や「SNS等の利用時間」と学力との関係

平日の学習時間については、小学生では学習時間が長いほど、中学生では1～2時間未満までの層で学習時間が長いほど各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられる。一方で、SNSや動画視聴などの利用時間は、少ないほど各教科の正答率・スコアが高い傾向がみられた。

今後も、学校と家庭、地域がしっかりと連携し、適切なメディア利用と主体的な学習習慣の定着に向け、一人ひとりの状況に応じた丁寧な支援が必要である。

